

中学校 1 年 (国語科)

科 目	週 時 数	担当教諭
国語	4	市川・犬飼・武藤

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを旨とする。 ・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことを旨とする。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、日本や海外の言語文化に関わり、その能力の向上を図る態度を培う。 		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、日本や海外の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	図書館オリエンテーション 詩「朝のリレー」 評論「クジラの飲み水」 小説「空中ブランコ乗りのキキ」 「ロジカル国語表現Ⅱ」 p. 4～11 「中学生の文法」 p. 2～17、p. 24～27 主張作文 読書指導 作文指導	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の構成や表現の効果について考えることができる。 ・評論文の構成や展開など、読み手にわかりやすく伝えるための工夫を捉えている。 ・描写から場面の展開や登場人物の関係、心情の変化を捉えることができる。 ・論理の仕組みを理解し、説得力のある文章を書くことができる。 ・主語、述語など言葉の単位を理解し、識別することができる。 ・自分の思いや主張を根拠や具体的なエピソードを踏まえ、人に伝わりやすい文章を書くことができる。
2 学期	随筆「字のない葉書」 評論「一〇〇〇円の価値を考える」 小説「トロッコ」 「ロジカル国語表現Ⅱ」 p. 12～19 「中学生の文法」 p. 28～35 p. 108 古典「竹取物語」 漢文「矛盾」 毛筆 読書指導 作文指導	<ul style="list-style-type: none"> ・行動や心情の描写を基に、人物像や人物の心情の変化を理解し、説明することができる。 ・文章の要旨を捉え、筆者の考えに対して自分の意見を持つことができる。 ・情景描写と場面の展開を結びつけて、内容を捉えることができる。 ・古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典作品に親しみを持つことができる。 ・訓読の仕方を理解し、故事成語の基となった話に関心を示すことができる。
3 学期	評論「意味と意図—コミュニケーションを考える」 小説「少年の日の思い出」 「ロジカル国語表現Ⅱ」 p. 20～29 読書指導 作文指導	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報に着目して文章を要約することができる。 ・語り手の視点を捉え、表現の効果について説明することができる。 ・登場人物の行動や心情について、自分の考えを確かなものにするることができる。 ・資料や図表から読み取った情報を整理し、自分の意見をまとめることができる。

授業の形態	一斉授業・グループ学習
教科書	『現代の国語 1』三省堂、『現代の書写 一・二・三』三省堂
副教材	『中学生の文法』東京法令出版、『ロジカル国語表現Ⅱ』好学出版、『国語便覧』浜島書店 『中学必修テキスト』文理
評価の方法	考査得点 60%+平常点 40%(小テスト・提出物など)
備 考	・今後の授業展開や生徒の動向に合わせて学習内容を適宜変更する可能性がある。

中学校 1 年 (社会科 地理分野)

科 目	週 時 数	担当教諭
社会 (地理分野)	3	角原・立花・矢田

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地理についての理解を深め、世界各地の人々の生活と環境とのかかわりや世界の諸地域の多様性について理解する。 日本の地理に関する学習を通じ、世界に出た際日本の国土の良さを適切に発信・表現できる能力と態度を身に着ける。 全体的内容を通して、解のない問いに自らの意見や周りの意見を対話の中で新たな知見を創造する力を養う。 		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> 日本の諸地域と世界の諸地域における基礎的・基本的な知識を習得し、理解する。 普遍的な原理を理解し、合理的判断を下すための要素として、活用できる知識を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けて、適切に思考できる。 地図や統計資料から、自然や社会・経済などの諸現象の背景や要因について統計資料などを用いて論理的に他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界に表出される諸現象を、地理的因果関係から合理的に明らかにしようとする精神を養う。 合理的精神を個人の完成とわが国の発展に積極的に用いようとする意欲・態度を身に着ける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 世界の姿 日本の姿 地図・地球から見る日本 いろいろな国の国名と位置 緯度・経度・時差問題 日本の領土と領域 世界のさまざまな地域における人々の生活と環境 	<ul style="list-style-type: none"> 資料集や地図帳を中心に日本の都市や世界の国々に興味を持つ。 地球儀と世界地図の構造を調べ、その活用の仕方を身につける。 時差が生じる仕組みを理解し、主な国々と日本の時差を計算できるようにする。 日本の領域に関する基礎的な事項を理解し、日本の範囲を表現できるようにする。 世界の地域の衣・食・住の特色を、気候帯や雨温図を読み取りながら説明することができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地形・気候・農業 各国の気候・農業・工業の特徴 世界の諸地域 (アジア・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ・オセアニア) 	<ul style="list-style-type: none"> 地形によって規定される生活様式・農林水産業・鉱工業の一般原理を把握する。 各気候区における生活様式・農林水産業・鉱工業の一般原理を把握する。 言語の系統、宗教の種類、気候の共通性によって現れてくる民族区分を把握する。 地球規模で発生する諸問題について、それぞれの原因を正しく理解することで、根本的な対策について深く考察し、その対策への国際的な取り組みを知ることによって国際的感覚を養う。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域的特色 地図、地形図の読み取り方 さまざまな面からとらえた日本 近畿地方 日本の各地方 	<ul style="list-style-type: none"> 紙面上で示された地形図を、立体的にとらえることができるようにする。 47 都道府県から構成される日本を地域分けするにはどのような分け方があるのかさまざまな観点から考察し、自分なりの意見を持って説明できる。 地域の特色を、地域にみられる課題を人々がどのように克服してきたのか、また課題にどのように取り組もうとしているのかに目を向けさせる。 グループごとに調べ、プレゼンを基本とし表現する力を養う。

授業の形態	一斉授業や班別議論を行う。タブレットを活用しての事前調べや白地図の作業を行う。また、タブレットを活用したグループワーク・プレゼンテーション等も行う。
教科書	『中学生の地理』『中学校社会科地図』 帝国書院
副教材	「key ワーク地理 I・II」・atama+
評価の方法	定期試験 40% (年 3 回) 平常点 60% (単元テスト、授業内課題、パフォーマンス課題など)
備考	

中学1年 (数学科)

科目	週時数	担当教諭
数学	4	岡本・河原・北村・奥

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。 ・文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理する能力を培う。 ・比例、反比例についての理解を深めるとともに、身近に存在する関数関係を見だし主体的に考察する能力を身に付ける。 ・図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。 ・目的に応じて資料を整理し、その資料の傾向を読み取る能力を身に付ける。 		
	育 っ た い 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力
<ul style="list-style-type: none"> ・負の範囲まで拡張された数の四則演算や1元1次方程式の解を効率的に求める。 ・図形に関する基礎的な概念や原理、法則の理解を深め、基本的な図形の面積や体積を調べる。 ・身近な事象を数学的に捉え表現し、数学的に処理する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲を拡張しその性質や計算について考察したり、文字を用いて数量関係や法則などを表現したりする。 ・数量の変化や対応に着目して関数関係を見出し、その特徴を表、式、グラフなどを用いて関連付けて考察する。 ・図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する。 ・データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して、数学の楽しさや有用さに気づき、数学を日常生活にかかそうとする。 ・問題解決の過程を振り返って検討しようとする。 ・多面的、多角的に事象を捉え、粘り強く考えようとする。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	正の数と負の数 (正の数と負の数、加法と減法、乗法と除法、いろいろな計算) 文字と式 (文字と式、文字式の計算、文字式の利用) 1次方程式 (1次方程式、方程式の利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・数の概念を負の数にまで拡張し、その意味を理解するとともに、四則計算ができるようにする。 ・文字を用いて関係や法則を式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を身に付けるとともに、文字式の計算ができるようにする。 ・方程式について理解し、1元1次方程式を解くことができるようにする。文章を数式化し、問題を解決する力をつける。
2学期	比例と反比例 (比例、反比例、比例と反比例の利用) 平面図形 (直線、図形の移動、作図、円、三角形の外心・内心) 空間図形 (いろいろな立体、空間の位置関係、いろいろな立体の見方)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象の中にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係を見出し表現し考察する能力を伸ばす。 ・見通しをもって、基本的な図形を作図する能力を伸ばすとともに、平面図形についての理解を深める。 ・立体について具体的に考察し、空間図形についての理解を深める。
3学期	空間図形 (立体の体積、おうぎ形、立体の表面積、球の表面積と体積、立体の切断) データの活用 (データの整理とその活用、確率)	<ul style="list-style-type: none"> ・立体について具体的に考察し、立体の表面積と体積を計算によって求めることができるようにする。 ・目的に応じて資料を表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取るができるようにするとともに、数の表現に関する理解を深める。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができるようにする。

授業の形態	クラス授業/2クラス3分割授業
教科書	『これからの数学1』数研出版
副教材	『STEP 演習 中学数学1年 完成ノート』数研出版、『AI教材 atama+』
評価の方法	定期考査60%+平常点40% 平常点の内容(提出物、「atama+」、小テストなど)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを活用した授業展開や課題も行う。 ・授業形態については、学習内容や状況に応じて柔軟に使い分けながら実施する。

中学校 1 年 (理科)

科 目	週 時 数	担当教諭
理科	3	大槻・保木・國領・西本

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を通して、科学的な事象に関心を持ち、適切にまとめ考察する能力を身につける。 ・実験、観察器具の基本的な使い方を習得する。 ・科学的な基礎知識を身につける。 ・科学的探究活動に取り組むことにより、探究する姿勢を養う。 		
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・密度、圧力、濃度などの意味や求め方を理解している。 ・光、音、力に関する現象の性質や規則性について理解することができる。 ・植物や動物の分類を理解している。 ・岩石などの観察を通して、大地の変化への認識を深めることができる。 ・実験器具を正しく利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の意図を理解した上で実施し、深い考察を載せたレポートを作成できる。 ・状態変化を粒子のモデルで説明できる。レンズの公式やドップラー効果について説明できる。 ・地震計のデータより、観測地点と震源との間の距離を計算できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で水溶液の性質や、光、音の性質や力のはたらき、植物の体の成り立ちや、大地の移り変わりなどに関心を持ち、授業の内容と結びつけて考えることができる。 ・物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究することができる。 ・生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を涵養する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	自然の中にあふれる生命 いろいろな生物とその共通点 <ul style="list-style-type: none"> ・花のつくりとはたらき ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類 身のまわりの物質 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな物質とその性質 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな生物を観察し、その分類をすることができる。 ・様々な花のつくりの観察を行い、その観察記録に基づいて、植物の基本的なつくりの特徴を理解する。 ・動物がいくつかのなかまに分類できることを見いだす。 ・物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだす。 ・様々な気体の特性及び発生方法や捕集方法などの技能を理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化 光・音・力による現象 <ul style="list-style-type: none"> ・光による現象 ・音による現象 	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。 ・加熱、冷却により物質の状態が変化することを実験により確かめ、粒子モデルと関連づけて理解する。 ・光が反射、屈折するときの規則性を理解する。凸レンズのはたらきについて、物体の位置と像の位置および像の大きさの関係を理解する。 ・音の大きさや高さは音源の振動に関係すること、および音は波として空気中を約 340m/s の速さで伝わることを見いだす。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・力による現象 活きている地球 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な大地 ・ゆれる大地 ・火をふく大地 ・語る大地 	<ul style="list-style-type: none"> ・力が物体に及ぼす3つのはたらきを理解する。 ・2力がつり合う条件を見いだすことができるようにする。 ・火山の活動とマグマの性質の関係を理解する。また、マグマからできる火成岩の特徴を、観察を通して理解する。 ・地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解する。また、震源、震央の分布をプレートの動きと関連づけて理解する。地層を構成する岩石や化石から、地層が堆積した時代や当時の環境を推測する。また、大地の変動が断層や地形として記録されていることに気づく。自然現象の監視や防災について調べ、自然との共生の在り方について考える。

授業の形態	観察や実験を重視した講義形式（一斉学習、グループ学習、個別学習） 複数教員を配置した授業を設定し、より充実した授業を展開する。
教科書	『未来へ広がるサイエンス1』啓林館
副教材	デジタル教材（atama+含む）
評価の方法	定期考査 70% + 平常点 30%（授業態度、提出物(web テストなどを含む)、琵琶湖学習レポート）
備考	実体験を重視し、科学への関心を高めるような授業を展開する。AD クラスは発展的な演習をおこなう。ICT 機器を有効に活用し、生徒の学習内容の理解を深める。

中学校1年 (保健体育科)

科目	週時数	担当教諭
保健体育	3	長沢・渡邊・中島

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見することができる。 ・合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉えることができる。 ・生徒自身が生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を身につけることができる。 		
育てたい力	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的な実践のための理論や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論及び運動、体力の必要性について理解する力。 ・個人生活における健康・安全について理解する力。 ・運動や健康・安全についての基本的な技能。 	
	思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力。 ・健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力。 	
		主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲。 ・健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度。 ・生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動、立守ダンス ・新体力テスト ・陸上競技 (短距離走・リレー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動：授業内でのルールやマナーを確認し安全かつ円滑に授業ができる。 ・立守ダンス：リズムに乗って全身で踊ることを通して、ケガの防止や主運動を行うための身体の準備、その運動に対する能力を最大に発揮できる状態をつくる。 ・新体力テスト：自己の体力の現状や課題について知る。 ・陸上競技：局面 (スタート、加速疾走、中間疾走、フィニッシュ) の走法やスピードを生かしたバトンパスのしかたを知る。自己やチームの課題を発見し、解決方法を考え、個人やチームでタイムを短縮させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の成り立ち ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の成立要因と病気の発生要因について理解し、自身の生活や環境と関連づけて考える。 ・運動による体の機能の発達と健康が向上することについて理解し、運動習慣の改善について自身の生活と関連づけて課題を発見し、解決方法を考える。 ・食事の役割やエネルギーの過不足と健康問題について理解し、健康によい食事のしかたを知る。食習慣の改善について自身の生活と関連づけて課題を発見し、解決方法を考える。 ・疲労の現れ方や疲労がもたらす健康問題について理解し、疲労の回復により休養・睡眠のしかたを知る。休養・睡眠を含めた調和のとれた生活について、自身の生活と関連づけて課題を発見し、解決方法を考える。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・男子：球技 (ソフトボール、バレーボール) ・女子：球技 (ソフトテニス)、武道 (剣道) ・体育祭練習 ・陸上競技 (長距離走) 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技：ボールに慣れ、状況に応じたボール操作ができる。 ・武道：基本的な技術・知識とともに武道の精神・礼法を学ぶ。 ・体育祭練習：学校・学年・クラス目標のもと、仲間と協力して活動に励み、行事を仲間とともに作り上げる。 ・長距離走：自分に合った走法 (呼吸法、ペース等) を見つけ、基礎体力 (全身持久力) を向上させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達 ・呼吸器・循環器の発育・発達 ・生殖にかかわる働き成熟(1) ・生殖にかかわる働き成熟(2) ・性への関心と行動 ・知的機能・情意機能の発達 	<ul style="list-style-type: none"> ・発育急進期および体の器官別にみた発育・発達の特徴について、自身や自身の生活と関連づけて理解する。 ・呼吸器・循環器の働きと発育・発達の特徴、運動との関係について、自身の生活と関連づけて理解する。 ・ホルモンの働きと思春期の体の変化の特徴、思春期の女子・男子の生殖機能の発達の特徴、受精と妊娠のしくみについて理解する。 ・思春期における性意識の変化や性情報への対処について理解し、性に関する適切な態度や行動が必要になることを理解する。 ・知的機能と情意機能の発達について、自身や自身の生活と関連付けて理解する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・男子：器械運動 (マット運動) ・女子：球技 (バスケットボール) 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動：器械運動の特性や技の組合せ方などを理解し、正しい練習法を知り、安全にマット運動ができる。 ・球技：ボールに慣れ、状況に応じたボール操作やボールを持たないときの動きができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の発達と自立 ・自己形成 ・欲求とその充足 ・心と体のかかわりとストレス ・ストレスへの対処のしかた ・リラクセーションの方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の発達や自立と社会性との関係について理解する。 ・思春期における自己認識の変化や自己形成と社会性の関りについて理解する。 ・欲求や欲求と健康の関りについて理解する。 ・心身相関のしくみや自律神経の働き、ストレスおよびストレスへの対処について理解する。 ・リラクセーションの方法を身につける。

授業の形態	2クラス男女別3講座
教科書	『最新 中学校 保健体育』 大修館書店
副教材	『最新 中学校 保健体育ノート1』 大修館書店
評価の方法	定常点 100 点満点 ・知識・技能：実技テストによる運動能力、授業内考査 ・思考力・判断力・表現力：授業内の行動および課題提出状況 ・主体的に学習に取り組む態度：自主的・積極的に参加する姿勢 ・授業欠席 1 回につき 1 点を、遅刻や忘れ物 1 回につき 0.5 点を実技点から差し引く
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・立守ダンスを通年実施し、体力の維持・向上をはかる ・見学が必要な場合は、必ず授業時間前に担当教員に申し出る

中学校 1 年 （芸術科：音楽）

科 目	週 時 数	担当教諭
音楽	1.5	西川

目 標	・表現及び、幅広い活動を通して音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身につける。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現を行うために必要な技能を身につける。	・音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の体験を通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開き ・歌唱『学園歌』 ・歌唱『主人は冷たい土の中に』 ・変声期と混声合唱『We Will Find The Way』 ・鑑賞『ジョーズのテーマ』 ・鑑賞『魔王』 ・歌唱『浜辺の歌』+『赤とんぼ』 ・器楽 アルトリコーダー『喜びの歌』『かっこう』『聖者の行進』 ・創作 リズム作り ・楽典 音楽の約束 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や学習方法を確認しよう ・立命館守山中学校の一員として学園歌を歌えるようにしよう ・音楽の特徴を感じ取って表現を工夫しよう ・変声期について理解し、混声合唱の響きを味わおう ・イメージしたことと音楽を形作っている要素を意識しながら鑑賞しよう ・詩と音楽の関わりを感じ取ろう ・詩と音楽の関わりを感じ取り、表現を工夫しよう ・基本的なリコーダーの歴史や知識、構造や種類を理解し、演奏しよう ・音符や休符を組み合わせてリズムを創ろう ・音楽記号・用語を理解しよう
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 日本の民謡 ・鑑賞 アジアの諸民族の音楽 ・合唱コンクール課題曲・自由曲 ・鑑賞『四季』 ・器楽 アルトリコーダー『カノン1』『カノン2』『オーラリー』 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の民謡の特徴を感じ取り、魅力を感じ取ろう ・アジア各地の音楽を聴き、特徴を探ろう ・曲のイメージと表現方法を話し合い、合唱をしよう ・音楽の特徴を掴み、情景を思い浮かべながら鑑賞し、魅力を紹介しよう ・アーティキュレーションや運指に注意しながら演奏しよう
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 雅楽『平調越天楽』 ・鑑賞・器楽 箏『六段の調』『さくらさくら』 ・創作 オリジナルチャイム 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴を理解し、楽器の音色や雅楽の良さを味わおう ・箏の音色を味わいながら演奏しよう ・自分のイメージに合ったチャイムを作ろう

授業の形態	講義 個人 グループワーク
教科書	『中学生の音楽1』『中学生の器楽』
副教材	『中学生のキャンパス1』『スクールデイズ』 アルトリコーダー 五線ノート ICT 機器
評価の方法	実技 100% 実技テスト（歌唱・器楽・創作）・プレゼン・レポート・日々の取り組み
備考	必要に応じてアプリ等を使用する

中学校 1 年 (美術科)

科 目		週 時 数	担当教諭
美術		1.5	田村
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を身に着ける。 ・感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を獲得する。 		
育 っ て い たい 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫する能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の造形や美術作品などの造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度。
時期	学習内容・項目	ねらい・目標	
1 学期	<ガイダンス> <表現> ・クローキ、デッサン (人物・円柱・四角柱) ・色の学習 (色相環・色の三要素・三原色・混色) ・様々な表現技法 ・文字のデザイン ・平和ポスター <鑑賞> ・製作時における参考作品の鑑賞 ・講評 (レポート) ・作品鑑賞 ・美術鑑賞レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の図画工作との違いを理解し、表現活動への期待感を高める。 ・対象をよく観察し、形や構造の特徴をつかんで表現する力をつける。 ・描画材料の特性を理解し、表現活動に活用する力をつける。 ・色彩の基礎的な知識を学び、作品制作に活用する力をつける。 ・限られた時間内で制作できるように、製作計画を立てる習慣を付ける。 ・デザインと色彩で伝達効果を高める工夫をする。 ・自他の作品について考察したことを述べ合ったり、互いの作品の良さを発見して伝え合うことで、コミュニケーションの力を養う。 ・出来るだけ多くの作品に親しみ、表現されている内容を素直に味わう姿勢を身につける。 ・作家の生涯や作品を理解し、芸術作品を愛好する心情を育成する。 	
2 学期	<表現> 伝えるデザイン ～ピクトグラム～ <鑑賞> ・ピクトグラム鑑賞 ・レポート ・相互鑑賞・相互評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクトグラムの歴史やユニバーサルデザインについて理解する。 ・身近なものの中から材料を見つけ出し、よさや美しさを考えながらデザインや構成を工夫する。 ・学んだ知識や身に着いた力の確認をし、制作時の課題を明確にする。 ・デジタルでデザインする基礎技術を理解し、習得する。 ・作品鑑賞を通して、多様な価値観やものの見方があることを学ぶ。 	
3 学期	<表現> ワンソースマルチデザイン ～エコバック制作～ <鑑賞> ・相互鑑賞・相互評価	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件などを基にワンソースマルチデザインを生かした構成や装飾を考え、材料や用具の生かし方などを工夫して創造的にデザインする。 ・さまざまな描画方法のなかから、表現意図にあったものを選択し、創意工夫して表現する。 ・環境についての調べ学習とレポートを作成することで、自分たちの抱えている環境問題について考える。 ・身近なものの中から材料を見つけ出し、デザインや構成を工夫する。 ・互いの個性や作品を認め合う。 	
授業の形態	・講義、個人制作、作品発表と相互鑑賞・相互評価、グループワーク		
教科書	・『美術 1』光村図書		
副教材			
評価の方法	・作品 50%+平常点・レポート等 50%		
備考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する		

中学校 1 年 （技術・家庭科）

科 目	週 時 数	担当教諭
技術・家庭科（技術分野）	1	加藤

目 標	ものづくりなどの実践的、体験的な学習活動を通じて、材料加工、エネルギー変換、生物育成、情報とコンピュータに関する基礎的な知識及び技能を習得するとともに、技術と生活や環境との関わりについて理解を深め、思考力、判断力、表現力を身につけ、生活の向上や改善に積極的に取り組む態度を育成する。		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
育てたい力	生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解する力。	生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して、技術を評価、選択、応用する力。	進んで技術と関わろうとし、主体的に技術に関する知識・技能を身につけ、よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	ガイダンス 私たちの生活と技術の進歩 作品の設計（製図）	<ul style="list-style-type: none"> ・技術が人間の生活を向上させるとともに、技術が果たしている役割について関心を示し、理解を深める。 ・製作品の構想を製図で書き表すことができる。 ・製図の見方やかき方、寸法線などについて知識を身につける。
2 学期	作品の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴と利用方法について知識を身につける。 ・使用目的や使用条件にあった材料や工具を選び、加工法を検討し適切に使用できる。 ・省資源に配慮した製作を通して、環境問題に関する知識や理解を深めることができる。 ・構想通りに作品を仕上げるができる。
3 学期	情報とコンピュータ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに関する基礎的な知識と基本的な操作方法を理解できる。 ・目的に応じてソフトウェアを選択し、工夫を入れながら作品を仕上げるができる。

授業の形態	講義・実習・演習・発表
教科書	『新しい技術・家庭 技術分野』東京書籍
副教材	なし
評価の方法	定期考査 50 % + 平常点 50 % 定期考査：1 学期期末、2 学期期末（2 回） 3 学期は考査を実施せず、平常点のみで評価を行う 平常点：提出課題、および授業中の製作物 なお、技術科の評価は家庭科の評価と同じ比率で合算することにより、技術・家庭科の評価として示す
備 考	・授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。

中学校 1 年 (技術・家庭科)

科 目	週 時 数	担当教諭
技術・家庭科 (家庭分野)	1	後藤

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な食生活についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。 ・家族・家庭や地域における食生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 ・自分と家族の関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい食生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 		
	育 っ て たい 力	知識・技能 ・家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な食生活に関する基礎的・基本的な知識を身につける。	思考力・判断力・表現力 ・食生活について見直し、課題を見付けることができ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫する力を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	健康と食生活 ・食事の役割と健康によい食習慣 被服実習 ・小物づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割について理解し、毎日の食生活に関心をもつことができる。 ・食事を規則正しくとることの重要性がわかる。 ・製作に必要な材料や道具を安全に効率的に使うことができる。 ・生活を豊かにするものを考え、製作の計画を立てることができる。
2 学期	何をどれだけ食べればよいか ・中学生に必要な栄養を満たす食事・栄養素の種類と働き ・食品に含まれる栄養素 ・1 日分の献立 ・食品の選択と購入 ・食品の保存 日常食の調理	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類とはたらきを理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 ・「食事バランスガイド」を満たすように食品を組み合わせ、1 日分の献立を立てることができる。 ・生鮮食品と加工食品の特徴がわかる。 ・食品の表示の意味を理解できる。 ・食品の鮮度や表示を見て、自分で選択できる。購入した食品を適切に保存できる。 ・食の情報と手順を読み取り、自分で正しい情報を判断できる。 ・調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。 ・安全や衛生に注意することができる。火・包丁・まな板・計量器具の使い方がわかる。
3 学期	地域の食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生産される食材を知り、調理を通して地域の食文化を理解する。 ・日本の行事食について知り、行事を生活に生かすことができる。

授 業 の 形 態	講義・実習・グループワーク・発表
教 科 書	『New 技術・家庭 家庭分野』教育図書
副 教 材	「New 技術・家庭 家庭分野 ワークノート 家庭 702 準拠」教育図書
評 価 の 方 法	定期考査 50 % + 平常点 50 % 定期考査：1 学期期末、2 学期期末 (2 回) 3 学期は考査を実施せず、平常点のみで評価を行う 平常点：授業ノートやレポートなどの提出課題、および授業中の製作物 なお、家庭科の評価は技術科の評価と同じ比率で合算することにより、技術・家庭科の評価として示す
備 考	授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。そのため、課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。

中学校 1 年 (英語科) (エキスパート・カリキュラム)

科 目	週 時 数	担当教諭
英 語	5	竹田・水谷葉奈・山田・橋詰・Andrew Carter

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音声や単語、表現、文法、言葉の働きを理解するとともに、これらの知識を「聞くこと、話すこと（やり取り・発表）、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 まとまった量の英文に対して、内容を把握したり、必要な情報を正確に理解したり、相手の意向を正しく理解したりすることができる。また、相手の意向を正しく理解し、言い換えなどをして確認できる。 まとまった量の英文で得た知識等について、理由や事例を添えながら、自分の考えや気持ち、事実などを、まとまった量の英文で正しく伝えることができる。また、場面に応じて、相手に対してわかりやすく伝えることができる。 		
	育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現
	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題に関するまとまった量の英文を聞くこと・読むことにおいて、必要な情報や相手の意向などを正しく理解できる。 発音、強勢、イントネーション、区切りなどの英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取り、話すことができる。 場面や状況に応じて、話し手に質問をするなどして、相手の意向を確認しながら、内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある事柄や日常的话题、社会的な話題について、客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で、話したり書いたりすることができる。 英語の音声の特徴を意識しながら、正しい発音で話すことができる。 与えられたテーマについてスピーチをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに関心を持ち、ペアワークなどを通じて、主体的かつ円滑に英語でのコミュニケーションを図ろうとしている。 やりとりをしながら、意見交換をし、コミュニケーションを続けようとしている。 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Starter	・基本的な英語の音声の特徴とアルファベットを理解し、正しく発音することができる。
	Lesson1	・be 動詞 I am / You are と一般動詞 do の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、簡単なあいさつをしたり、自分のことや身近なものについて尋ねたり、伝えたりすることができる。
	Lesson2	・助動詞 can の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことを伝えたり、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。 ・名詞の複数形、how many を使った疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことを伝えたり、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。
	Lesson3	・be 動詞 This is / That is の肯定文、否定文、疑問文、及び what, who を使った疑問文を理解し、これらの知識を使い、簡単なあいさつをしたり、自分のことや身近なものについて尋ねたり、伝えたりすることができる。
	Lesson4	・一般動詞の過去形の肯定文を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、身近な人のことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。
2 学期	Lesson5	・3 単現を使った肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。
	Lesson6	・現在進行形の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、身近な人について尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。
	Lesson7	・be 動詞や一般動詞を用いた 5 W 1 H の疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、相手のことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。
3 学期	Lesson8	・be 動詞や一般動詞を用いた過去形・過去進行形の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。
	Lesson9	・未来を表す表現を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、相手のことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。

授業の形態	日本人の先生による授業（週 4 時間） 外国人の先生と日本人の先生によるチームティーチング（週 1 時間）
教科書	『NEW CROWN English Series 1』三省堂
副教材	『NEW CROWN 完全準拠 Workbook 1』三省堂 『新ユメタン①』アルク 『SUPERSTEP 中学英文法 1～3 年』くもん出版社
評価の方法	定期考査 30% + 平常点 70% (平常点は、単元小テスト、パフォーマンステストなどを評価対象とする。)
備考	他の講座と授業進度は同じであるが、拡張的なコミュニケーション活動などを取り入れていく。

中学校 1 年 (英語科)

科 目	週 時 数	担当教諭
英 語	5	竹田・水谷葉奈・山田・橋詰・Andrew Carter

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の知識を「聞くこと、話すこと(やりとり・発表)、読むこと、書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 ・外国語を通じ、主体的・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 ・外国語を通じ、言語や文化に対する理解を深め、自らの考えや意見などを表現したり伝え合ったりすることができる力を身につける。 		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や身近な事柄に関する英文を聞くこと・読むことにおいて、必要な情報や相手の意向などを正しく理解できる。 ・発音、強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取り、話すことができる。 ・場面や状況に応じて、話し手に質問をするなどして、内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のある事柄や日常的な話題、身近なことについて、客観的な事実や自分の考え・意見を、相手に正しく伝わるように、話のつながりなどに注意しながら、即興で簡単なやりとりができる。 ・与えられたテーマについて簡単なスピーチをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関心を持ち、ペアワークなどを通じて、主体的に英語でのコミュニケーションを図ろうとしている。 ・相手の質問や意見などに対応し、対話を継続させようとしている。 ・間違いを恐れず、前向きにコミュニケーションを図ろうとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Starter	・基本的な英語の音声の特徴とアルファベットを理解し、正しく発音することができる。
	Lesson1	・be 動詞 I am / You are と一般動詞 do の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、簡単なあいさつをしたり、自分のことや身近なものについて尋ねたり、伝えたりすることができる。
	Lesson2	・助動詞 can の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことを伝えたり、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。 ・名詞の複数形、how many を使った疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことを伝えたり、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。
	Lesson3	・be 動詞 This is / That is の肯定文、否定文、疑問文、及び what, who を使った疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことや身近なものについて尋ねたり、伝えたりすることができる。
	Lesson4	・一般動詞の過去形の肯定文を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、身近な人のことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。
2 学期	Lesson5	・3 単現を使った肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。
	Lesson6	・現在進行形の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、身近な人について尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りができる。
	Lesson7	・be 動詞や一般動詞を用いた 5 W 1 H の疑問文を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、相手のことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。
3 学期	Lesson8	・be 動詞や一般動詞を用いた過去形・過去進行形の肯定文、否定文、疑問文を理解し、これらの知識を使い、身近な人や物について、尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。
	Lesson9	・未来を表す表現を理解し、これらの知識を使い、自分のことについて英文で伝えたり、相手のことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。また、簡単なやり取りをすることができる。

授業の形態	日本人の先生による授業(週4時間) 外国人の先生と日本人の先生によるティームティーチング(週1時間)
教科書	『NEW CROWN English Series 1』三省堂
副教材	『NEW CROWN 完全準拠 Workbook 1』三省堂 『新ユメタン①』アルク 『SUPERSTEP 中学英文法1~3年』くもん出版社
評価の方法	定期考査 30%+平常点 70% (平常点は、主に授業への積極的な参加態度、単元小テスト、パフォーマンステストなどを評価対象とする。)
備考	

中学校 1 年 (道徳科)

科 目	週 時 数	担当教諭
道徳	1	中学 1 年担任

目 標	確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を涵養する。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	よりよく生きるための基盤となる考えを培うために、教科や探究活動などの学習プロセスで出会う多様な価値観について理解を深める力。	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深め、人間としてどのように対処することが望ましいかを判断、表現する力。	「自由と清新」の理念に基づき、個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として「平和と民主主義」を尊ぶ人間性。

時期	学習教材	内容項目
1 学期	1 ともだち 2 おはよう 3 「どうせ無理」をなくしたい 4 二人の言い分 5 あなたならどうしますか	学習教材に含まれる学習内容 (順不同) <ul style="list-style-type: none"> ・真理の探究、創造 ・社会参画、公共の精神 ・自然愛護 ・向上心、個性の伸長 ・節度、節制 ・よりよい学校生活、集団生活の充実 ・友情、信頼 ・自主、自律、自由と責任 ・遵法精神、公德心 ・相互理解、寛容 ・公正、公平、社会主義 ・思いやり、感謝 ・国際理解、国際貢献 ・勤労 ・よりよく生きる喜び ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・希望と勇気、克己と強い意志 ・家族愛、家庭生活の充実
2 学期	6 いのちを考える 7 自分で決める 8 ごめんね、おばあちゃん 9 難民とともに 10 ヤクーバとライオン 11 裏庭のできごと 12 ルールとマナー 13 一日前に戻れるとしたら 14 オリンピックの土俵を目ざして 15 けやき中を誇りに 16 不思議な独り言 17 ショートパンツ初体験 in アメリカ	
3 学期	18 「ちがひ」について考えよう 19 選ぶということ 20 全ての人に安心、安全な水を 21 レイ之助が望んだこと 22 幸せな仕事って 23 富士山を守っていくために 24 伝えたい味 25 雅司のとまどい 26 それは個性 27 よく生きること、よく死ぬこと 28 私に宇宙のプレゼント 29 庶民の笑いを絶やさない 30 オーロラの向こうに 31 古びた目覚まし時計 32 「夢」をつなぐ 33 マンションの椅子 34 もったいない 35 僕の応援歌	

授業の形態	クラス授業／一斉授業
教科書	『中学道徳 1 とびだそう未来へ』教育出版
評価の方法	数値による評価は行わず、学習活動における生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で記述する。
備 考	教科学習、探究活動との関連を重視し、チーム担任によるスライド制の授業を実施する。

中学校 2 年 (国語科)

科 目	週 時 数	担当教諭
国語 I	2	南・市川

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを旨とする。 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、日本や海外の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、日本や海外の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 詩「名付けられた葉」 小説「セミロングホームルーム」 評論「人間は他の星に住むことができるのか」 	<ul style="list-style-type: none"> 詩に込められたものの見方を捉え、自分の考えを深める。 詩のリズムを感じ取りながら音読し、表現の効果について考える。 人物の設定の仕方を捉える。 表現や構成の工夫とその効果について考える。 主張と例示との関係に着目して読み、内容を理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 報告「壁に残された伝言」 短歌「短歌の世界」「短歌十首」 評論「味は味覚だけで決まらない」 小説「小さな手袋」 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりする。 文章の全体と部分との関係に着目して読み、内容を理解する。 心情を表す表現や情景を捉え、短歌を詠み味わう。 観点を明確にして短歌を比較するなどして、表現の効果について考える。 図表と文章などを結びつけて、筆者の考えを捉える。 文章を読んで理解した味の感じ方について、知識や経験と結びつけて自分の考えを広げる。 主人公の言動に着目し、その意図や心情を読み深める。 登場人物の人物像と相関関係を捉える。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 小説「走れメロス」 討論「ディベート」 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開に即して人物の心情を捉え、表現の効果について考える。 登場人物の人物像について、自分の考えを広げたり深めたりする。

授業の形態	一斉授業・グループ学習
教科書	『現代の国語 2』三省堂
副教材	『国語便覧』浜島書店、『中学必修テキスト 2 年 三省堂版』文理
評価の方法	考查得点 60%＋平常点 40%（ノート提出や単元の振り返りなど） 考查は 1 時間で国語 I・国語 II をまとめて出題する。
備 考	・今後の授業展開や生徒の動向に合わせて適宜変更する可能性がある。

中学校 2 年 （国語科）

科 目	週 時 数	担当教諭
国語Ⅱ	2	衣川

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを旨とする。 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、日本や海外の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、日本や海外の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 『現代文グレートラーニング 40』 p8～17 文法「動詞」「形容詞」「形容動詞」 「主張作文」の作成と発表 	<ul style="list-style-type: none"> 小説の構成や解説のポイントを理解することができる。 評論の構成や解説のポイントを理解することができる。 用言の働きについて理解し、活用の種類と活用形を理解することができる。 自分で選んだテーマについて、自分の主張を「事実」「意見」「根拠」を整理して記述し、わかりやすく伝えることができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 『現代文グレートラーニング 40』 p18～35 活用しない自立語 敬語 古文「枕草子」「徒然草」「平家物語」 毛筆展への作品づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 「名詞」「副詞」「連体詞」「接続詞」「感動詞」について、その働きや特徴について理解できる。 敬語のはたらきについて知り、実際に活用することができる。 古典作品を通して、現代にも通じる思想を理解できる。 歴史的仮名遣いや古文単語を理解できる。 古典作品において、内容や人物像について考察し、他者にわかりやすく伝えることができる。 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 『現代文グレートラーニング 40』 p36～47 漢文「論語」 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通じて読解力をつけ、要旨を的確に要約する力をつける。 漢文の訓読を知り、書き下し文の音読や内容理解ができる。 古典作品を通して、現代にも通じる思想を理解できる。

授業の形態	一斉授業・グループ学習
教科書	『現代の国語 2』三省堂
副教材	『国語便覧』浜島書店、『現代文グレートラーニング 40 レベル 1』尚文出版、『中学生の文法』東京法令出版、『中学必修テキスト 2年 三省堂版』文理、『現代の書写』（三省堂）
評価の方法	考查得点 60% + 平常点 40%（小テストや単元の振り返りなど） 考查は 1 時間で国語Ⅰ・国語Ⅱをまとめて出題する。
備 考	・今後の授業展開や生徒の動向に合わせて適宜変更する可能性がある。

中学校 2 年 （社会科 歴史分野）

科目	週時数	担当教諭
社会（歴史分野）	3	立花・森本

目標	<ul style="list-style-type: none"> 通史の理解を通じて、歴史的事象に対する関心を高め、通史の大きな流れと時代の特色を理解し、文化と伝統の特色を広い視野に立って考えるとともに、様々な資料を活用し、多面的・多角的に考察し公正に判断し、適切に表現する能力と態度を培う。 教学理念の「平和と民主主義」を正しく理解し、人間の権利と自由の尊重について、あわせて人類の今後の課題について考察する。また、学年で取り組む平和学習と関連して、より平和と民主主義を深める。 教科書・DVDなどの映像教材等を用いて、教科書レベルの内容を理解する。また単元ごとに小テストを行いその定着を図り、かつレポート作成・グループ発表等を通じて問題発見から文章作成能力、プレゼンテーション能力を付ける。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> 日本又は世界の歴史について基礎的な事柄や流れを正しく理解し、その知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史について様々な史資料を収集し、有用な情報を選択して活用し、これをレポート等で適切に表現する能力を培う。 疑問を持ちながら学習していく中で、課題を見出し世界的視野に立ち、多面的・多角的に考察し判断する能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を自覚させるために、歴史に対する関心と課題意識を高める。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第 1 章 古代国家の成立と東アジア 1 人類の登場から文明の発生へ 2 東アジアの中の倭（日本） 3 中国にならった国家づくり 4 展開する天皇・貴族の政治	<ul style="list-style-type: none"> 人類の誕生から古代までの通史を中心として、日本と周辺国との関わりを正しく理解する。 貴族の世から武士の政権の誕生まで、それぞれの特徴、違いを正しく理解する。
2 学期	第 2 章 武家政権の成長と東アジア 1 武士の世の始まり 2 武家政権の内と外 3 人々の結びつき強まる社会 第 3 章 武家政権の展開と世界の動き 1 大航海によって結びつく世界 2 戦乱から全国統一へ 3 武士による支配の完成 4 天化泰平の世の中 5 社会の変化と幕府の対策	<ul style="list-style-type: none"> 日本の中世の政治史を中心として、武家政権の特徴を正しく理解する。 日本の中世の庶民の生活、あるいは仏教の特徴を学び、現代の我々の生活との関わりを理解する。 わが国を取り巻く周辺国、あるいは欧米諸国との関わりを学び、わが国近世の発展の流れを学ぶ。 江戸幕府の誕生と、幕藩体制の強化への流れを理解する。 江戸時代の社会と、様々な文化的特徴を正しく認識し、約 260 年も続いた背景を理解する。 江戸幕府の諸改革と諸藩の改革から幕藩体制の崩壊の要因について理解する。
3 学期	第 4 章 近代国家の歩みと国際社会 1 欧米諸国における「近代化」 2 開国と幕府の終わり 3 明治政府による「近代化」の始まり 4 近代国家への歩み	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命や市民革命の背景と影響について学ぶ。 欧米諸国で成立した近代社会の特質について理解する。 開国から明治維新に至る経緯と新政府の課題を理解する。 明治政府が行った国家づくりを理解する。 近代国家の中で、日本は世界の中でどのような動きをしていたのか理解する。

授業の形態	クラス授業。講義形式やタブレットを活用したグループワーク・プレゼンテーション等を行う。
教科書	「社会科 中学生の歴史」帝国書院
副教材	「key ワーク歴史 I・II」、atama+
評価の方法	定期試験 40%（年 3 回）平常点 60%（単元テスト、授業内課題、パフォーマンス課題など）
備考	

中学2年（数学科）

科 目	週 時 数	担当教諭
数学	4	竹間・河原・中村

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた式と連立2元1次方程式、平面図形と数学的な推論、1次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習にいかそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 		
	育 っ て たい 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力
		<ul style="list-style-type: none"> 1次関数、平面図形、データの分布と確率、式の計算、平方根などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力を養う。 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	1章 式の計算 単項式と多項式／多項式の計算／ 単項式の乗法、除法／式の値／ 文字式の利用／等式の変形	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算できること。 具体的な事象の中の数量の関係を、文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすること。 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解すること。 目的に応じて、簡単な式を変形すること。 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、正式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現すること。 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。
	2章 連立方程式 2元1次方程式と連立方程式／ 連立方程式の解き方／ いろいろな連立方程式の解き方／ 連立方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 2元1次方程式とその解の意味を理解すること。 連立2元1次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。 簡単な連立2元1次方程式を解くこと。 1元1次方程式と関連付けて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現すること。 連立2元1次方程式を具体的な場面で活用すること。
	3章 1次関数 1次関数／1次関数の値の変化／ 1次関数のグラフ／ 1次関数の式の求め方／ 2元1次方程式のグラフ／ 連立方程式とグラフ／1次関数の利用	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数について理解すること。 事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知ること。 2元1次方程式を、関数を表す式とみること。 1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。 1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。
2学期	4章 図形の性質と合同 直線と角／三角形の角／ 多角形の内角と外角／ 合同な図形／三角形の合同条件／ 証明のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 平行線や角の性質を理解する。 多角形の角についての性質を見いだせることを知る。 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明する。 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること。 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。
	5章 三角形と四角形 二等辺三角形／正三角形／ 直角三角形／ことからの逆と反例／ 平行四辺形／特別な平行四辺形／ 面積が等しい三角形	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見出したりすること。 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。
3学期	6章 データの活用 四分位数と四分位範囲／箱ひげ図／ データの傾向と調査	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること。 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すこと。 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察して判断すること。
	7章 確率 確率／いろいろな確率	<ul style="list-style-type: none"> 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解すること。 簡単な場合について確率を求めること。 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること。 確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。

授業の形態	クラス授業
教科書	『これからの数学2』数研出版
副教材	『STEP演習 中学数学2年 完成ノート』数研出版、『AI教材 atama+』
評価の方法	定期考査60% + 平常点40% 平常点の内容（小テスト、atama+、提出課題など）
備 考	iPadを活用した授業や課題も行う。

中学校 2年 (理科)

科目	週時数	担当教諭
理科	4	飯住・西本

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を通して、科学的な事象に関心を持ち、適切にまとめ考察する能力を身につける。 ・実験、観察器具の基本的な使い方を習得する。 ・科学的な基礎知識を身につける。 ・科学的探究活動に取り組むことにより、探究する姿勢を養う。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな化学変化を化学反応式で表すことができる。 ・電流や電圧の大きさを計算することができる。 ・植物や動物の分類や各器官の仕組みについて、認識を深めることができる。 ・天気の変化について認識を深めることができる。 ・実験器具を正しく利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の意図を理解した上で実施し、深い考察を載せたレポートを作成できる。 ・原子や分子と関連付けて、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見だし、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見だしで表現することができる。 ・観察、実験などを行い、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見だし、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見だして表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中での化学変化や電流のはたらき、動物の体の成り立ちや生活、また天気の移り変わりの原因について関心を持ち、授業内容と結びつけて考えることができる。 ・物質やエネルギーに関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究することができる。 ・生命や地球に関する事象・現象に進んで関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を涵養する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	化学変化と原子・分子 <ul style="list-style-type: none"> ・物質の成り立ち ・物質の表し方 ・さまざまな化学変化 ・化学変化と物質の質量 生物の体のつくりとはたらき <ul style="list-style-type: none"> ・生物の体をつくるもの ・植物の体のつくりとはたらき 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を分解・化合する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。 ・物質は原子や分子からできていること、化学変化は原子や分子のモデルで説明できることを理解する。 ・化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。 ・生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだす。 ・植物の葉・茎・根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験結果と関連付けて理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の体のつくりとはたらき ・動物の行動のしくみ 電流とその利用 <ul style="list-style-type: none"> ・電流の性質 ・電流の正体 ・電流と磁界 	<ul style="list-style-type: none"> ・消化や呼吸、血液の循環についての観察、実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみや不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。 ・動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて捉える。 ・回路の基本的な性質、電圧と電流との関係について規則性を見いだすとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。 ・日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見だし、真空放電の実験から、電流の正体について理解する。 ・電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解し、直流と交流の違いをとらえる。
3 学期	地球の大気と天気の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・地球をとり巻く大気の様子 ・大気中の水の変化 ・天気の変化と大気の動き ・大気の動きと日本の四季 	<ul style="list-style-type: none"> ・気圧に関して、実験を行い、空気の重さと関連付けて理解する。 ・気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解する。 ・霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解する ・日本周辺にできる気団や日本付近の大気の動き方の規則性と関連づけながら天気の変化を捉える。

授業の形態	観察や実験を重視した講義形式 (一斉学習、グループ学習、個別学習)
教科書	『未来へ広がるサイエンス2』啓林館
副教材	デジタル教材 (atama+含む)
評価の方法	定期考査 70% + 平常点 30% (授業態度、提出物(web テストなどを含む)・探究レポート)
備考	実体験を重視し、科学への関心を高めるような授業を展開する。AD クラスは発展的な演習をおこなう。ICT 機器を有効に活用し、生徒の授業内容の理解を深める。

中学校2年 (保健体育科)

科 目	週 時 数	担当教諭
保健体育	3	野吹・北川・上野・中島・

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見することができる。 ・合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉えることができる。 ・生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を身につけることができる。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性についての知識。 ・運動や健康、安全に関する基本的な技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断する力。 ・自己や仲間の考えたことを他者に伝える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲。 ・健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動・体づくり (立守ダンス) ・新体力テスト ・男子:球技(ハンドボール) ・女子:球技(ソフトボール) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内でのルールやマナーを確認し、かつ安全・円滑に授業ができる。 ・新体力テストを実施し、自己の能力や課題について知る。 ・基本的なボール操作ができる。また、ルールを理解し、ゲームへの発展につなげる。 ・チーム内での課題を発見し、協力して課題解決に向けた取り組みができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病 ・生活習慣病の予防 ・がんとその予防+生活習慣病・がんの早期発見とその回復 ・喫煙と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病とは何かを知り、その予防について理解する。 ・実生活における生活習慣病の予防に対する行動をとることができる。 ・がんに対しての基本的な知識を身につける。 ・喫煙の害について知り、健康について考えることができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・男子:球技(サッカー)、柔道 ・女子:球技(ハンドボール)、陸上競技(ハードル走) ・陸上競技(長距離走) ・体育祭練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボール操作ができる。また、ルールを理解し、ゲームへの発展につなげる。 ・チーム内での課題を発見し、協力して課題解決に向けた取り組みができる。 ・体力の向上をはかる。筋力・持久力を向上させる。 ・授業を通じ、基本的な技術・知識と共に武道の精神・礼法を理解する。 ・体育祭事前授業として、種目の実施方法などを理解する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけと対処 ・けがの原因と防止 ・交通事故の実態と原因+交通事故の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒、薬物乱用、喫煙による害について知り、健康について考えることができる。 ・薬物乱用による、社会への影響を知ることができる。 ・交通事故や、けがはどのような要因が起こるのか、また発生を防いだり悪化させたりしないようにするための仕組みを理解する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・男子:球技(テニス) ・女子:球技(バレーボール) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボール操作ができる。また、ルールを理解し、ゲームへの発展につなげる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害によるけがの防止 ・応急手当の意義と基本 ・心肺蘇生法の流れ ・心肺蘇生法(実習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害などによる障害、けがはどのような要因で起こるのか、また発生を防いだり悪化させたりしないようにするための仕組みを知る。 ・心肺蘇生法の意義及び実施方法について理解し、技能を習得する。

授業の形態	2クラス男女別2講座、3クラス男女別4講座
教科書	『最新 中学校保健体育』 大修館書店
副教材	『最新 中学校保健体育ノート2』 大修館書店
評価の方法	平常点 100点満点 ・知識・技能:実技テストによる運動能力および保健体育の授業内考査 ・思考力・判断力・表現力:授業内の活動および課題提出状況 ・主体的に学習に取り組む態度:主体的・積極的に参加する姿勢 ・授業欠席1回につき1点を、遅刻や忘れ物1回につき0.5点を実技点から差し引く
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・立守ダンスを通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 ・見学が必要な場合は、必ず授業時間前に担当教員に申し出る。

中学校 2 年 （芸術科：音楽）

科 目	週 時 数	担当教諭
音楽	1	林

目 標	・表現及び、幅広い活動を通して音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現にするために必要な技能を身に付ける。	・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができる。	・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開き ・歌唱『夢の世界を』 ・歌唱『翼をください』 ・歌唱『夏の思い出』 ・鑑賞『フーガ短調』 ・鑑賞 オークストラ ・鑑賞『交響曲第 5 番ハ短調』 ・器楽『ラヴァーズコンチェルト』 ・楽典 音楽の約束 拍子・形式 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や学習方法を確認しよう ・ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌おう ・音楽の特徴を感じ取って表現を工夫して歌おう ・詩と音楽の関わりを意識して表現を工夫しよう ・旋律の重なりや楽器の音色を味わいながら鑑賞しよう ・オーケストラの響きを味わおう ・曲の構成を理解し、曲想を味わいながら鑑賞しよう ・アーティキュレーションや様々な運指に気をつけて演奏しよう ・単純拍子と複合拍子、1～3 部形式を理解しよう
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 世界の諸民族の音楽 ・歌唱『サンタルチア』 ・合唱コンクール課題曲・自由曲 ・鑑賞『アイダ』 ・鑑賞 ミュージカル ・楽典・創作 調性 長調 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な楽器や音楽の魅力を発見し、紹介しよう ・イタリアの風土とカンツォーネを理解し、表現を工夫して歌おう ・曲のイメージと表現方法を話し合い、合唱をしよう ・オペラに親しみ、その音楽を味わおう ・音楽とその他の芸術の関わりを感じながら鑑賞しよう ・長調について理解し、長調の旋律を作ろう
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 歌舞伎・文楽・能 能『安宅』『羽衣』 文楽『鳴響安宅親関』 歌舞伎『勸進帳』 ・楽典・創作 調性 短調 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統芸能の特徴や魅力を味わい、紹介しよう ・短調について理解し、短調の旋律を作ろう

授業の形態	講義 個人 グループワーク
教科書	『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』
副教材	『音楽のキャンパス 2・3 上』『スクールデイズ』 アルトリコーダー 五線ノート ICT 機器
評価の方法	実技 100% 実技テスト（歌唱・器楽・創作）・プレゼン・レポート・日々の取り組み
備 考	必要に応じてアプリ等を使用する

中学校2年（美術科）

科 目	週 時 数	担当教諭
美術	1	山崎

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を追求し創造的に表すことができる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の造形や美術作品などの造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独自の・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	<表現> ・伝えるデザイン～シンボルマーク ・写真 ・抽象表現 ・水墨画 <鑑賞> ・ピクトグラム・写真・抽象作品の鑑賞 ・平和とアート作品 鑑賞 ・講評（レポート） ・生徒作品鑑賞 ・美術館鑑賞レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインや構成を工夫して表現する。 ・自分の身近なものの中から美しさを発見し、自分の切り取った世界として表現する。 ・抽象表現を理解し、色彩や構成で自己表現する。 ・さまざまな描画方法のなかから、表現意図にあったものを選択し、創意工夫して表現する。 ・墨による様々な表現を理解し、墨が持つよさや美しさに関心をもち、独自の豊かな発想や構想を工夫し、表現する。 ・学んだ知識や身に着いた力の確認をし、課題を明確にする。 ・自己の外見だけでなく内面をとらえ、自分らしい表現を探求する。 ・作者の個性や主題への考察を深め、表現されている内容を素直に味わう。 ・印象や感想や発見を素直に言語化し、自分自身の感じ方に気づく。
2学期	<表現> ・日本の美意識～扇子のデザイン～ <鑑賞> ・作品の相互鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の画材や表現方法を理解し、特性を生かしながら色彩や構成を考え、自己表現する。 ・日本の伝統文化やデザインの良さを理解する。 ・主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わう。 ・鑑賞会を行い、友達の作品の良さや工夫を見つけ、意見を交流する。
3学期	<表現> 沖縄の文化～紅型体験～ <鑑賞> ・沖縄の文化 作品の相互鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な中にある、他者の理解や相手を思いやるデザインを発見し理解する。 ・互いの個性や良さを認め合う。
授業の形態	・講義、個人制作、グループワーク、作品講評（合評）と相互鑑賞、相互評価	
教科書	・『美術2・3』光村出版	
副教材		
評価の方法	・作品50%+平常点・レポート等50%	
備考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する	

中学校 2 年 （技術・家庭科）

科 目	週 時 数	担当教諭
技術・家庭科（技術分野）	1	加藤

目 標	ものづくりなどの実践的、体験的な学習活動を通じて、材料加工、エネルギー変換、生物育成、情報とコンピュータに関する基礎的な知識及び技能を習得するとともに、技術と生活や環境との関わりについて理解を深め、思考力、判断力、表現力を身につけ、生活の向上や改善に積極的に取り組む態度を育成する。		
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
	生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解する力。	生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して、技術を評価、選択、応用する力。	進んで技術と関わろうとし、主体的に技術に関する知識・技能を身につけ、よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	ソフトウェアの活用 コンピュータと情報通信ネットワークの利用	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活の中で情報通信ネットワークが果たす役割を考えられている。 目的に応じたソフトウェアを用いて、表現手段を工夫して表現や発信ができる。 情報発信に伴って発生する問題や、発信者としての責任についての知識を身につけている。
2 学期	エネルギー変換とその利用 生物育成	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作・調整についての知識を身につけている。 使用目的や使用条件に即して製作品の機能と構造を工夫している。 機器の保守点検と事故防止ができる。 生物育成に関する技術について理解を深め、社会や環境に果たす役割や影響について理解している。
3 学期	デジタル作品の製作	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータに関する知識と技能を活用できる。 目的に応じてソフトウェアを選択し、工夫を入れながら作品を仕上げることができる。

授業の形態	講義・実習・演習・発表
教科書	『新しい技術・家庭 技術分野』東京書籍
副教材	なし
評価の方法	定期考査 50 % + 平常点 50 % 定期考査：1 学期期末、2 学期期末（2 回） 3 学期は考査を実施せず、平常点のみで評価を行う 平常点：提出課題、および授業中の製作物 なお、技術科の評価は家庭科の評価と同じ比率で合算することにより、技術・家庭科の評価として示す
備 考	・授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。

中学校 2 年 （技術・家庭科）

科 目	週 時 数	担当教諭
技術・家庭科（家庭分野）	1	後藤

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な衣生活や住生活についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。 ・家族・家庭や地域における衣生活や住生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 ・自分と家族の関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい衣生活や住生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 		
育 っ たい 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の自立に必要な衣生活や住生活に関する基礎的・基本的な技術を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活や住生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活や住生活について関心を持ち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・衣服の選択と手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った衣服を選び、自分らしい着方を工夫することができる。 ・衣服の社会生活上のはたらきがわかる。目的に合った服装について考えることができる。 ・洋服と和服の構成のちがいや和服の着方を知る。 ・衣服の正しい表示の見方や洗濯のしかたがわかる。 ・衣服の状態に合わせた、手入れの必要性がわかる。衣服の状態に合わせた、適切な手入れができる。 ・衣服の素材に適した手入れがわかる。取り扱い表示の意味を理解して、適切な手入れの方法を選択できる。 ・衣服素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。取り扱い表示を参考にして、洗濯を工夫できる。
2 学期	・生活を豊かにするための布を用いた製作	<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンを適切に設定し、安全に使う。衣服を適切に収納・保管できる。 ・傷み具合に合わせた方法で補修ができる。 ・自分や家族の生活を豊かにするものを考える。製作に必要な材料・用具、目的に合った縫い方などを知る。
3 学期	・住居の機能と安全な住まい方	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの基本的なはたらきを理解し、住まいに必要な空間とその役割がわかる。 ・家族によって住まい方がちがうことがわかる。家族の生活行為と住まいの空間とのかかわりがわかる。 ・室内の空気が汚れる原因を知り、健康に配慮した住まい方を考え、工夫することができる。 ・家庭内の事故の種類とその原因がわかる。家族の安全を考えた住まい方を工夫できる。 ・災害への備えの必要性がわかり、住まいや地域における工夫を考えることができる。 ・地域とつながる視点から安全で快適な住まい方について考えることができる。 ・住まい方が地域に及ぼす影響がわかり、住まい方を工夫できる。生活騒音の種類と問題点を理解し、適切な防音対策を工夫できる。

授業の形態	講義・実習・グループワーク・発表
教科書	『New 技術・家庭 家庭分野』教育図書
副教材	「New 技術・家庭 家庭分野 ワークノート 家庭 702 準拠」教育図書
評価の方法	定期考査 50 % + 平常点 50 % 定期考査：1 学期期末、2 学期期末（2 回） 3 学期は考査を実施せず、平常点のみで評価を行う 平常点：ワークノートやレポートなどの提出課題、および授業中の製作物 なお、家庭科の評価は技術科の評価と同じ比率で合算することにより、技術・家庭科の評価として示す
備 考	授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。そのため、課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。

中学校2年（英語科）（エキスパートカリキュラム）

科目	週時数	担当教諭
英語	5	橋詰・Kali Pendle

目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音声や単語、表現、文法、言葉の働きを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、話すこと（やり取り・発表）、読むこと、書くこと、による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 まとまった量の英文に対して、必要な情報を正確に理解したり、相手の意向を正しく理解したりすることができる。 理由や事例を添えながら、自分の考えや気持ち、事実などを、まとまった量の英文で正しく伝えることができる。 英検準2級を全員取得する。英検2級以上取得を目指して努力する。
----	--

育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題に関するまとまった量の英文を聞くことや読むことにおいて、必要な情報や相手の意向などを正しく理解できる。 場面や状況に応じて、話し手に質問をし、相手の意向を確認するなどして内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題について、客観的な事実や自分の考えや意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で、話したり書いたりすることができる。 英語の音声の特徴を意識しながら、正しい発音で話すことができる。 関心のあることや社会的な話題に関して自分の意見や考えを人前で効果的に話し、議論をしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに関心を持ち、ペアワークなどを通じて、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。 やりとりをしながら、互いに意見交換をし、コミュニケーションを続けようとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	Lesson 1	副詞節や名詞節を導く接続詞を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったりし、やり取りを続けることができる。
	Lesson 2	不定詞の形式と意味、使い方を理解し、この知識を使い、自分のこと、関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題についてまとまった英文で理由や事例を添えて伝えたり、相手のことや客観的な事実について尋ねたり理解したりできる。また、やり取りを続けることができる。
	Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> There is / are の形式と意味、使い方を理解し、この知識を使い、自分のことや関心のある事柄や日常的な話題についてまとまった英文で理由や事例を添えて伝えたり、相手のことや客観的な事実について尋ねたり理解したりできる。また、やり取りを続けることができる。 動名詞を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問したりすることができる。
2学期	Lesson 4	<ul style="list-style-type: none"> 英語の文型（第4、5文型）を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問することができる。 また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることでやり取りを続けることができる。
	Lesson 5	比較表現の形式と意味、使い方を理解し、この知識を使い、自分のことや関心のある事柄や日常的な話題についてまとまった英文で理由や事例を添えて伝えたり、相手のことや客観的な事実について尋ねたり理解したりできる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることでやり取りを続けることができる。
	Lesson 6	現在完了形（継続）の肯定文、否定文、疑問文を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問することができる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることでやり取りを続けることができる。
3学期	Lesson 7	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了形（完了・経験）の肯定文、否定文、疑問文を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問したりすることができる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることでやり取りを続けることができる。
	Lesson 8	
	総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の復習と活用を目的とした、スピーチ・動画作成・演劇・プレゼンテーションなど様々な活動を通して英語の運用力を高める。 相手のアイディアに耳を傾け、興味関心の枠を広げる。

授業の形態	日本人の先生による授業（週4時間） 外国人の先生と日本人の先生によるティームティーチング（週1時間）
教科書	『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』三省堂
副教材	『NEW CROWN 完全準拠 Workbook 2』三省堂 『新ユメタン⑩』アルク 『SUPERSTEP 中学英文法』くもん出版社
評価の方法	定期考査 30% + 平常点 70%
備考	<ul style="list-style-type: none"> 他の講座と授業進度は同じであるが、拡張的なコミュニケーション活動などを取り入れていく。 平常点は、主に授業への積極的な参加態度、プロジェクト学習、プレゼンテーション、スピーキング・インタビューテスト、エッセイ・ライティングなどのパフォーマンステストを評価対象とする。

中学校 2 年（英語科）

科 目	週 時 数	担当教諭
英 語	5	和田・橋詰・林・Kali Pendle

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の知識を「聞くこと、話すこと（やり取り・発表）、読むこと、書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 ・外国語を通じ、主体的・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 ・外国語を通じ、言語や文化に対する理解を深め、自らの考えや意見などを表現したり伝え合ったりすることができる力を身につける。 ・英検 3 級以上の取得を目指す。 		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に英語に取り組む態度
育 っ た い 力	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的话题や社会的な話題に関するまとまった量の英文を聞くことや読むことにおいて、必要な情報や相手の意向などを正しく理解できる。 ・発音、強勢、イントネーションなどの英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取り、話すことができる。 ・場面や状況に応じて、話し手に質問をし、相手の意向を確認したりするなどして内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のある事柄や日常的话题について、客観的な事実や自分の考えや意見を相手に正しく伝えるように、話のつながりなどに注意して、即興でやりとりができる。 ・自ら定めたテーマや発表形式をもとに、英語でパフォーマンスをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関心を持ち、ペアワークやグループ活動などを通じて、主体的に英語でのコミュニケーションを図ろうとしている。 ・相手の質問や意見などに対応し、対話を継続させようとしている。 ・間違いを恐れずに楽しんで前向きにコミュニケーションを図ろうとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Lesson 1	・副詞節や名詞節を導く接続詞を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。
	Lesson 2	・不定詞を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。
	Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> ・There is / are の肯定文、否定文、疑問文を理解し、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。 ・動名詞を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。
2 学期	Lesson 4	・英語の文型（第 4、5 文型）を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることで互いの考えを深め合うことができる。
	Lesson 5	・比較表現（比較級、最上級、as～as）を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることで互いの考えを深め合うことができる。
	Lesson 6	・現在完了形（継続）の肯定文、否定文、疑問文を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることで互いの考えを深め合うことができる。
3 学期	Lesson 7	<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形（完了・経験）の肯定文、否定文、疑問文を理解し、それらが用いられる英文を正しく理解したり、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互い述べ合ったり、質問するなどができる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることで互いの考えを深め合うことができる。
	Lesson 8	
	総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の復習と活用を目的とした、スピーチ・動画作成・演劇・プレゼンテーションなど様々な活動を通して英語の運用力を高める。 ・相手のアイディアに耳を傾け、興味関心の枠を広げる。

授業形態	日本人の先生による授業（週 4 時間） 外国人の先生と日本人の先生によるティームティーチング（週 1 時間）
教科書	『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』三省堂
副教材	『NEW CROWN 完全準拠 Workbook 2』三省堂 『新ユメタン①』アルク 『SUPERSTEP 中学英文法』くもん出版社
評価方法	定期考査 30%＋平常点 70%
備考	平常点は、主に授業への積極的な参加態度、単元小テスト、パフォーマンステストなどを評価対象とする。

中学校 2年 (道徳科)

科目	週時数	担当教諭
道徳	1	中学2年担任

目標	確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を涵養する。		
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	よりよく生きるための基盤となる考えを培うために、教科や探究活動などの学習プロセスで出会う多様な価値観について理解を深める力。	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深め、人間としてどのように対処することが望ましいかを判断、表現する力。	「自由と清新」の理念に基づき、個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として「平和と民主主義」を尊ぶ人間性。

時期	学習教材	内容項目
1 学期	1 お菓子どうする？ 2 まるごと好きです 3 先輩 4 まだ食べられるのに 5 最優秀	学習教材に含まれる学習内容（順不同） ・真理の探究、創造 ・社会参画、公共の精神 ・自然愛護
2 学期	6 留学で考えさせられたお金 7 六千人の命のビザ 8 心のアンテナ 9 本当の友達って 10 風に立つライオン 11 分身ロボットでかなえたいこと 12 SNSとどうつき合う？ 13 あんパンとお礼状 14 清掃はやさしさ 15 夜の果物屋 16 まだ食べられるのに 17 「べつの道」へ	・向上心、個性の伸長 ・節度、節制 ・よりよい学校生活、集団生活の充実 ・友情、信頼 ・自主、自律、自由と責任 ・遵法精神、公德心 ・相互理解、寛容 ・公正、公平、社会主義 ・思いやり、感謝 ・国際理解、国際貢献
3 学期	18 違反摘発 19 心を鍛える 20 狂言師・野村萬齋物語 21 わたしのせいじゃなく 22 由紀のいた立ち 23 飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ 24 「金のおの」その後 25 地下鉄で 26 国境なき医師団・一貫戸朋子 27 たったひとつのたからもの 28 伝えるということ 29 三年生を送る会 30 ハッチを開けて、知らない世界へ 31 五万回斬られた男・福本清三 32 復旧にとどまらず、復興を 33 サッカーの種をまく 34 ドイツ・ヴリーツェンに眠る日本人医師 35 語りかける目	・勤労 ・よりよく生きる喜び ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・希望と勇気、克己と強い意志 ・家族愛、家庭生活の充実

授業の形態	クラス授業／一斉授業
教科書	『中学道徳2 とびだそう未来へ』教育出版
評価の方法	数値による評価は行わず、学習活動における生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で記述する。
備考	教科学習、探究活動との関連を重視し、チーム担任によるスライド制の授業を実施する。

中学校 3 年 (国語科)

科目	週時数	担当教諭
国語 I	2	川辺

育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本や海外の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、日本や海外の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを旨とする。 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、日本や海外の言語文化に関わり、その能力の向上を図る態度を養う。 		

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 詩「言の森」 詩作 「ワードハンティング」 評論『批判的に読む』とは 評論文の執筆 小説「握手」 物語文の執筆 読書活動 	<ul style="list-style-type: none"> 「言の森」に表れているものの見方や考え方についてクラスメイトに説明できるようにする。語彙を増やし、詩の作り方を一つ習得し、詩作をする。 批判的な読み方を習得し、活用する。 小説の構成や場面の展開を捉え、習得し、活用する。 読解を促進する方法を学び、活用する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 評論「海を越えた故郷の味」 評論「フロン規制の物語—〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざままで」 評論文の執筆「条件に応じて説得力のある文章を書く」 小説「高瀬舟」 詩「初恋」 俳句「俳句の世界」「俳句十句」 句会 	<ul style="list-style-type: none"> 人間や社会について自分の考えをもつ。 人の生き方や社会のあり方について考えを交流する。 表現の特徴とその効果を捉える。 俳句のきまりや表現の特徴をもとに俳句について理解を促進する。 句会のやりかた楽しみ方を習得する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 小説「故郷」 	<ul style="list-style-type: none"> 作品から読み取ったものの見方や考え方をもとに、人間関係や社会との関わり方について自分の意見をもつ。

授業の形態	・一斉授業・グループ学習
教科書	・『現代の国語 3』三省堂
副教材	・『中学必修テキスト 3 年 三省堂版』文理
評価の方法	・ 考査得点 60% + 平常点 40% 考査は 1 時間で国語 I・国語 II をまとめて出題する。
備考	今後の授業展開や生徒の動向に合わせて適宜変更する可能性がある。

中学校 3 年 (国語科)

科 目	週 時 数	担当教諭
国語 II	2	川辺・主山・武藤

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを旨とする。 ・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、日本や海外の言語文化に関わり、その能力の向上を図る態度を養う。 		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本や海外の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、日本や海外の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代文グレートラーニング 40』 P48～59 ・敬語のはたらき ・主張作文、意見発表 ・漢語、和語、外来語 ・文法「助詞・助動詞」 ・和歌「万葉集、古今和歌集、新古今和歌集」 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通じて読解力をつけ、要旨を的確に要約できる力をつける。 ・漢語・和語・外来語について理解し、効果的に使い分ける。 ・付属語「助詞・助動詞」のはたらきについて理解する。 ・歴史的背景に注意して読み、文章の特徴を理解し、情景や心情について話し合い、自分の考えを深める。 ・和歌の技法や歴史的背景を理解しながら、歌のリズムや情景描写を捉え心情を理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代文グレートラーニング 40』 P60～83 ・文法「まぎらわしい品詞の識別」 ・古典「おくのほそ道」 ・論語 ・慣用句、ことわざ、故事成語 ・四字熟語 ・毛筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通じて読解力をつけ、要旨を的確に要約できる力をつける。 ・四字熟語について理解を深める。 ・慣用句やことわざを知り、活用できるようになる。 ・口語文法について体系的な理解ができる。 ・古人の見方や考え方について話し合い、考えを深める。 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく書くことができる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代文グレートラーニング 40』 P84～107 ・ブックトーク ・討論「ディベート」 ・文法のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通じて読解力をつけ、要旨を的確に要約できる力をつける。 ・テーマに沿って数冊の本を選び、聞き手が興味を持つ紹介文を考え、発表できる。 ・討論の中で、対話力や思考力、判断力を伸ばし、探究活動の学びにつなげることができる。 ・高等学校古典につながる口語文法について理解できる。

授業の形態	・一斉授業 ・グループ学習
教科書	・『現代の国語 3』三省堂
副教材	・『国語便覧』浜島書店 ・『現代文グレートラーニング 40 レベル 1』尚文出版 ・『中学生の文法』東京法令出版 ・『中学必修テキスト 3 年』文理 ・『現代の書写』三省堂
評価の方法	・考査得点 60%+平常点 40% 考査は 1 時間で国語 I ・国語 II をまとめて出題する。
備考	今後の授業展開や生徒の動向に合わせて適宜変更する可能性がある。

中学校 3 年 （社会科 歴史分野・公民分野）

科 目	週 時 数	担当教諭
社会（歴史分野／公民分野）	4	押淵・矢田

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識し、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚する。 		
	育 っ たい 力	知識・技能 ・新聞紙面の情報を基本的に理解し、記事・社説に対し建設的批判的意見を述べる事が出来るレベルの能力を養う。	思考・判断・表現 ・自分が判断を下すために、資料を読みデータを分析する能力を養い、さらにそれを他者へ説明する能力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	〈歴史分野の続き〉 ・ 帝国主義と日本 ・ アジアの強国の光と影 ・ 第一次世界大戦と民族独立の動き ・ 高まるデモクラシーの意識 ・ 戦争に向かう世論 ・ 第二次世界大戦の惨禍 ・ 敗戦から立ち直る日本	<ul style="list-style-type: none"> 明治期の日本人たちの主体的国家意識を理解し、自由民権運動の全国的な広まり、政党の結成や憲法の制定過程とその内容の特徴を取り上げ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や現代の政治とのつながりを理解する。 世界大戦が国際協調体制を生み、その影響で大正デモクラシーが起きたことを理解する。 各国の恐慌への対応と日本の政党政治がなぜ終わったのかを理解し、「責任者不在の意思決定プロセス」について理解する。
2 学期	〈公民分野〉 ・ 民主主義の発展 ・ 憲法および日本国憲法とその原理 ・ 世論・選挙制度 ・ 三権分立（司法・立法・行政） ・ 地方自治体	<ul style="list-style-type: none"> 権力の源泉が「同意」にあることを理解する。また、憲法の本質を学んだうえで、日本国憲法の基本原理を理解する中で、私たちが生きる現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わる力を身につける。 小選挙区、比例代表制・ドント方式、衆参両院の選挙の仕組み、三権それぞれの権能を理解することで、政治の意義目的を考える力を養う。 地方自治について学び、主体的に社会に関わる力を育む。
3 学期	・ 経済活動とお金の役割 ・ 消費者として経済を考える ・ 景気変動のしくみと私たち ・ 企業と経済	<ul style="list-style-type: none"> 需要と供給の観点から、価格のはたらきを理解する。また、お金や消費者と経済の関りを理解することで、私たちが生きる現代社会での役割と責任を考える。 現代の生産や金融のしくみや働きを理解させるとともに、経済を活発にしていくための企業の役割と責任について考える。

授 業 の 形 態	クラス授業。講義形式やタブレットを活用したグループワーク・プレゼンテーション等を行う。
教 科 書	「社会科 中学生の歴史」「社会科 中学生の公民」 帝国書院
副 教 材	「key ワーク歴史Ⅱ」、「key ワーク公民」、atama+
評 価 の 方 法	定期試験 40%（年 5 回） 平常点 60%（単元テスト、授業内課題、パフォーマンス課題など）

中学校 3 年 (数学科)

科 目	週 時 数	担当教諭
数学 (AM)	5	岡本・増井

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 数の平方根、多項式と2次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習にいかそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。 		
	育 っ て たい 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力
	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解法について学び、解の公式を導く。 関数 $y = ax^2$ の特徴を理解する。 数量の関係や法則についての処理や、表現、整理をして活用する。 三平方の定理の意味を理解し、さらに図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを理解し、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量についての知識や技能を活用して関係や法則を見いだしたり、論理的に考察したりすることができる。 図形の計量に関して中学3年間の知識をすべて活用し、座標を用いて解析する力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 解の公式を導く過程を丁寧にかつ確実に再現できる。 変化の割合が変化するということがグラフが曲がるということを理解する。 数の概念の理解を深め、高校数学の準備を整える。 三平方の定理の様々な証明方法を調べ、証明のアイデアを知る。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	平方根 (中学数学3:2章) 平方根/有理数と無理数/ 根号を含む式の乗法と除法/ 根号を含む式の加法と減法/ いろいろな計算/近似値と有効数字	<ul style="list-style-type: none"> 数の平方根の必要性和意味を理解する。 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりする。 数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現する。 数の平方根を具体的な場面で活用する。
	2次方程式 (中学数学3:3章) 2次方程式とその解/ 因数分解による解き方/ 平方根の考えを使った解き方/ 2次方程式の解の公式/ いろいろな2次方程式/2次方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解する。 因数分解したり平方の形に変形したりして2次方程式を解く。 解の公式を知り、それを用いて2次方程式を解く。 因数分解や平方根の考え方を基にして、2次方程式を解く方法を考察し表現する。
	関数 (中学数学3:4章) 2乗に比例する関数/ 関数のグラフ/ 関数の値の変化/ 関数の利用/いろいろな関数	<ul style="list-style-type: none"> 関数として捉えられる2つの数量について、変化の対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現する。 関数を用いて具体的な事象を捉えて考察し表現する。
2 学期	相似 (中学数学3:5章) 相似な図形の性質/三角形の相似条件/ 相似な図形の面積の比/ 相似な立体とその性質/三角形と比/ 中点連結定理/平行線と線分の比/ 縮図の利用/相似の利用	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の相似条件などから、図形が相似であるための条件の考察などを深める。 中点連結定理について知る。 平面図形の相似比と面積比について理解し、計算することができる。
	円 (中学数学3:6章) 円周角の定理/円周角の定理の逆/ 円の性質の利用	<ul style="list-style-type: none"> 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知る。 円周角と中心角の関係を見いだす。 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用する。
	三平方の定理 (中学数学3:7章) 三平方の定理/三平方の定理の逆/ 平面図形への利用/空間図形への利用	<ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知る。 三平方の定理を見いだす。 三平方の定理を具体的な場面で活用する。
3 学期	標本調査 (中学数学3:8章) 母集団と標本/標本調査の利用	<ul style="list-style-type: none"> 標本調査の必要性和意味を理解する。 標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。

授業の形態	クラス授業
教科書	『これからの数学3』数研出版
副教材	『STEP 演習 中学数学3年 完成ノート』数研出版、『AI教材 atama+』
評価の方法	定期考査 60%+平常点 40%、平常点の内容 (提出物、atama+、小テストなど)
備考	iPadを活用した授業や課題も行う。

中学校3年 (数学科)

科目	週時数	担当教諭
数学(A・D)	5	中村

目標	<ul style="list-style-type: none"> 多項式と2次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習にいかそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解法について学び、解の公式を導く。 関数 $y = ax^2$ の特徴を理解する。 数量の関係や法則についての処理や、表現、整理をして活用する。 三平方の定理の意味を理解し、さらに図形と計量、図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを理解し、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量についての知識や技能を活用して関係や法則を見いだしたり、論理的に考察したりすることができる。 図形の計量に関して中学3年間の知識をすべて活用し、座標を用いて解析する力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 解の公式を導く過程を丁寧にかつ確実に再現できる。 変化の割合が変化することとグラフが変化することを確認して理解する。 数の概念の理解を深め高校への準備を整える。 三平方の定理の様々な証明方法を調べ、証明のアイデアを知る。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	平方根 (中学数学3 : 2章) 平方根/有理数と無理数/ 根号を含む式の乗法と除法/ 根号を含む式の加法と減法/ いろいろな計算/近似値と有効数字	<ul style="list-style-type: none"> 数の平方根の必要性和意味を理解する。 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりする。 数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現する。 数の平方根を具体的な場面で活用する。
	2次方程式 (中学数学3 : 3章) 2次方程式とその解/因数分解による解き方/平方根の考えを使った解き方/2次方程式の解の公式/ いろいろな2次方程式/2次方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解する。 因数分解したり平方の形に変形したりして2次方程式を解く。 解の公式を知り、それを用いて2次方程式を解く。 因数分解や平方根の考え方を基にして、2次方程式を解く方法を考察し表現する。
	数と式 (数学I : 1章) 多項式の加法と減法/多項式の乗法	<ul style="list-style-type: none"> 式を扱うための基本的な用語や計算方法について理解する。また、式を1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなど、式を多面的に捉える力を培う。
	関数 (中学数学3 : 4章) 2乗に比例する関数/関数のグラフ/ 関数の値の変化/関数の利用/いろいろな関数	<ul style="list-style-type: none"> 関数として捉えられる2つの数量について、変化の対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現する。 関数を用いて具体的な事象を捉えて考察し表現する。
	数と式 (数学I : 1章) 因数分解/実数/根号を含む式の計算/ 不等式の性質/1次不等式/ 絶対値を含む方程式・不等式	<ul style="list-style-type: none"> 数を実数まで拡張する意義や基本的な概念を理解できる。 不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、絶対値を含む方程式や不等式が解けるようにする。
2 学期	相似 (中学数学3 : 5章) 相似な図形の性質/三角形の相似条件/相似な図形の面積の比/相似な立体とその性質/三角形と比/中点連結定理/平行線と線分の比/縮図の利用/ 相似の利用	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の相似条件などから、図形が相似であるための条件の考察などを深める。 中点連結定理について知る。 平面図形の相似比と面積比について理解し、計算することができる。
	円 (中学数学3 : 6章) 円周角の定理/円周角の定理の逆/円の性質の利用	<ul style="list-style-type: none"> 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知る。 円周角と中心角の関係を見いだす。 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用する。
	集合と命題 (数学I : 2章) 命題と条件/命題と証明	<ul style="list-style-type: none"> 命題に関する基本的な概念や用語を理解し、命題の概念を活用して事象を考察できる。
	三平方の定理 (中学数学3 : 7章) 三平方の定理/三平方の定理の逆/ 平面図形への利用/空間図形への利用	<ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知る。 三平方の定理を見いだす。 三平方の定理を具体的な場面で活用する。
	標本調査 (中学数学3 : 8章) 母集団と標本/標本調査の利用	<ul style="list-style-type: none"> 標本調査の必要性和意味を理解する。 標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。
3 学期	データの分析 (数学I : 5章) データの整理/データの代表値/データの散らばりと四分位数/分散と標準偏差/2つの変量間の関係/ 仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 統計の基本的な考えや種々の統計量、特にデータの散らばりや相関を表す量について理解し、それらを用いてデータを分析し、様々な判断ができるようにする。 また、仮説検定の考え方を理解し、それをもとにした判断ができる。

授業の形態	クラス授業
教科書	『これからの数学3』数研出版 『NEXT 数学I(プリント対応)』数研出版
副教材	『STEP 演習 中学数学3年 完成ノート』数研出版、『スタンダード数学I+A(プリント対応)』数研出版、『AI教材 atama+』
評価の方法	定期考査60%+平常点40%、平常点の内容(提出物、atama+、小テストなど)
備考	iPadを活用した授業や課題も行う。2次方程式終了後は、中学数学と高校数学を同時並行で行う。

中学校 3 年 (理科)

科 目	週 時 数	担当教諭
理科	4	稲田・山本哲也

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を通して、科学的な事象に関心を持ち、適切にまとめ考察する能力を身につける。 ・実験、観察器具の基本的な使い方を習得する。 ・3年間の学習内容から総合的な知識を身につける。 ・1年間を通して探究活動をおこない、レポートにまとめる。 		
育 っ て い たい 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン記号や運動の公式を覚えることができる。 ・個体レベルから生態系まで多角的な視点における基本的概念や知識を理解できる。 ・天体の日周運動、年周運動、季節の変化を理解できる。 ・実験器具を正しく利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の意図を理解した上で実施し、深い考察を載せたレポートを作成できる。 ・化学変化とイオンを関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見だし、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性や関係性を見い出して表現することができる。 ・生物の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見だし、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見い出して表現することができる。 ・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中の電池や運動現象、生物の殖え方、天文学の果たす役割や不思議な現象に関心を持つことができる。 ・物質やエネルギーに関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究することができる。 ・生命や地球に関する事象・現象に進んで関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を涵養する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生命の連続性 <ul style="list-style-type: none"> ・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化 化学変化とイオン <ul style="list-style-type: none"> ・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸、アルカリと塩 	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞分裂の観察を行い、生物の成長を細胞分裂と関連づけて捉える。 ・無性生殖と有性生殖の特徴を見だし、遺伝子を介して親から子へ形質が伝わること、その伝わり方に規則性があることを理解する。 ・水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見い出して理解する。 ・電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。 ・電解質水溶液と2種類の金属などを用いた実験を行い、電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを理解する。 ・酸やアルカリの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・酸、アルカリと塩 宇宙を観る <ul style="list-style-type: none"> ・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方 運動とエネルギー <ul style="list-style-type: none"> ・力の合成と分解 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを理解し、モデルを使って説明できるようにする。 ・天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けて理解する。 ・星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けて理解する。 ・太陽の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、太陽の特徴を見い出して理解すること。 ・月の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、月の公転と見え方を関連付けて理解する。また、金星の観測資料などを基に、金星の公転と見え方を関連付けて理解する。 ・水圧と水の重さを関連付けて理解する。また、水中にある物体には浮力が働くことを理解する。 ・力の合成と分解についての実験を行い、合力や分力の規則性を理解し、作図ができる。 ・記録タイマーで物体の速さや運動の様子を調べ、物体にはたらく力と運動との関係を理解する。 ・仕事の量の求め方を理解し、仕事の原理を見い出す。また、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと物体の高さや質量、速さとの関係を見い出す。身のまわりにある様々なエネルギーはどのように移り変わるか理解するとともに、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解する。 ・様々なエネルギーとその変換に関する観察、実験などを通して、社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを見いだし、エネルギー資源の有効利用が大切であることを認識する。
3 学期	自然と人間 <ul style="list-style-type: none"> ・自然界のつり合い ・科学技術の発展 ・人間と環境 ・持続可能な社会をめざして 	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けて理解するとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見い出して理解する。 ・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

授業の形態	観察や実験を重視した講義形式 (一斉学習、グループ学習、個別学習)
教科書	『未来へ広がるサイエンス3』啓林館
副教材	デジタル教材 (atama+含む)
評価の方法	定期考査70% + 平常点30% (授業態度、提出物(webテストなどを含む)・卒業レポート)
備考	実体験を重視し、科学への関心を高めるような授業を展開する。ADクラスは発展的な演習をおこなう。ICT機器を有効に活用し、生徒の授業内容の理解を深める。

中学校 3 年 （保健体育科）

科 目	週 時 数	担当教諭
保健体育	3	野吹・長沢・北川・中尾輝・中島

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見することができる。 ・合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉えることができる。 ・生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を身につけることができる。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・運動、体力の必要性について理解する力。 ・個人生活における健康や安全について理解する力。 ・運動や健康・安全に関する基本的な技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断する力。 ・健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断する力。 ・自己や仲間の考えたことを他者に伝える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲。 ・健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度。 ・生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動、立守ダンス、新体力テスト ・男子：陸上競技（跳躍） ・女子：球技（バレーボール） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内でのルールやマナーを確認し、かつ安全・円滑に授業ができる。 ・新体力テストを実施し、自己の能力や課題について知る。 ・状況に応じたボール操作・ゲームの感覚を掴むことができる。 ・わたしたちを取り巻く環境はどのように変わってきているのかを理解する。 ・個人や社会の健康を守るため、飲料水や空気をどのように管理し、活用していくのかを理解する。 ・自然環境の汚染が個人や社会に与える影響、汚染の防止対策、環境活動を理解する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への適応能力 ・活動に適する環境 ・室内の空気の衛生的管理 ・飲料水の衛生的管理 ・生活に伴う廃棄物の衛生的管理 	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・男子：球技（バスケットボール、バレーボール） ・女子：球技（フットサル）、ダンス ・陸上競技（長距離走） ・体育祭練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボール操作ができる。 ・ルールを理解し、ゲームへの発展につなげる。 ・基礎体力（持久力）を向上させる。 ・人々の生活や人生を豊かにするスポーツが発揮する文化的な意義について理解する。 ・オリンピックなど国際的なスポーツ大会の果たす文化的な役割について考える。 ・感染症、性感染症の原因・予防について正しく理解する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症と病原体 ・感染症と体の抵抗力 ・感染症の予防 ・性感染症とその予防 ・エイズとその予防 	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共習選択体育 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習領域の中から、自身が学びたい領域を選択し、その競技に関する専門性を高め、理解を深める。 ・保健・医療機関の役割や医薬品の利用について理解することで、適切な利用に繋げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健機関とその利用 ・医療機関とその利用 ・医薬品の正しい使い方 	

授業の形態	2クラス男女別2講座、3クラス男女別4講座
教科書	『最新 中学校 保健体育』 大修館書店
副教材	『最新 中学保健体育ノート3』 大修館書店
評価の方法	平常点 100 点満点 ・知識・技能:実技テストによる運動能力および保健体育の授業内考査 ・思考力・判断力・表現力:授業内の活動および課題提出状況 ・主体的に学習に取り組む態度:主体的・積極的に参加する姿勢 ・授業欠席 1 回につき 1 点を、遅刻や忘れ物 1 回につき 0.5 点を実技点から差し引く
備 考	・立守ダンスを通年実施し、体力の維持・向上をはかる ・見学が必要な場合は、必ず授業時間前に担当教員に申し出る。

中学校 3 年 （芸術科：音楽）

科 目	週 時 数	担当教諭
音楽	1	林

目 標	・表現及び、幅広い活動を通して音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。		
育 っ たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現にするために必要な技能を身に付ける。	・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができる。	・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開き ・歌唱『花』 ・鑑賞『展覧会の絵』 ・鑑賞『ブルタバ』 ・器楽リコーダーアンサンブル 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や学習方法を確認しよう ・日本の歌の良さや美しさを味わい、表現を工夫しよう ・曲の特徴を感じ取り、音楽を味わおう ・曲が生まれた背景を理解し、作曲者の想いを感じ取ろう
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 世界の諸民族の音楽 ・鑑賞 ポピュラー音楽 ・歌唱『Hey Jude』 ・合唱コンクール課題曲・自由曲 ・創作 リズムアンサンブル 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な楽器の音色を味わおう ・様々なポピュラー音楽の良さを味わい、紹介しよう ・曲の雰囲気を生かして英語の歌を歌おう ・曲のイメージと表現方法を話し合い、合唱をしよう ・音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルを作ろう
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽史 ・創作『サウンドロゴ』 ・ルール守って音楽を楽しもう ・音楽の学びを振り返ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の歴史を振り返り、各時代の音楽の特徴を理解しよう ・立命館守山を PR するオリジナルサウンドロゴを創ろう ・ルールを守って音楽を楽しむ必要性を理解し、生涯にわたって生活と共にしていく音楽、自分にとっての音楽について考えよう ・3年間で学んだことを振り返り、おすすめの曲をプレゼンしよう

授業の形態	講義 個人 グループワーク
教科書	『中学生の音楽 2・3 上』 『中学生の音楽 2・3 下』 『中学生の器楽』
副教材	『中学生のキャンパス 2・3 下』 『スクールデイズ』 アルトリコーダー 五線ノート
評価の方法	実技 100% 実技テスト（歌唱・器楽・創作）・プレゼン・レポート・日々の取り組み
備 考	必要に応じてアプリ等を使用する

中学校3年（美術科）

科 目	週 時 数	担当教諭
美術	1	菊池

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。 		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を追求し創造的に表すことができる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の造形や美術作品などの造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション <表現> ・つたえるかたち <鑑賞> ・製作時における参考作品の鑑賞 ・講評（レポート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の見通しをつける。 ・身近な生活の中に疑問を持ち、より良くするためのアイデアを形にする。 ・他者を思い、伝えるためのデザインを考える。 ・アイデアから完成まで計画性とコンセプトを持ち制作する。 ・相互鑑賞を通して、コミュニケーション力をつける。 ・様々な解釈や価値観があることを学ぶ。
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション <表現> ・つたえるかたち <鑑賞> ・製作時における参考作品の鑑賞 ・講評（レポート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の見通しをつける。 ・身近な生活の中に疑問を持ち、より良くするためのアイデアを形にする。 ・他者を思い、伝えるためのデザインを考える。 ・アイデアから完成まで計画性とコンセプトを持ち制作する。 ・相互鑑賞を通して、コミュニケーション力をつける。 ・様々な解釈や価値観があることを学ぶ。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <表現> ・つたえるかたち <鑑賞> ・生徒作品鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中に疑問を持ち、より良くするためのアイデアを形にする。 ・他者を思い、伝えるためのデザインを考える。 ・アイデアから完成まで計画性とコンセプトを持ち制作する。 ・相互鑑賞を通して、コミュニケーション力をつける。 ・様々な解釈や価値観があることを学ぶ。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <表現> ニュージーランド伝統文化体験 日本の伝統文化体験 <鑑賞> ・ニュージーランドの伝統文化 ・生徒作品鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を鑑賞したり体験することで、様々な価値感を理解し尊重する。 ・日本文化を体感し、日本のよさを伝えられるようにする。

授業の形態	・講義と個人製作、グループワーク、作品講評（合評）と相互鑑賞・相互評価
教科書	・『美術2・3 上ー学びの実感と広がり』『美術2・3 下ー学びの探求と未来』日本文教出版
副教材	
評価の方法	・作品 50%+レポート・平常点等 50%
備考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する。

中学校 3 年 （技術・家庭科）

科 目	週 時 数	担当教諭
技術・家庭科（技術分野）	0.5	加藤

目 標	ものづくりなどの実践的、体験的な学習活動を通じて、材料加工、エネルギー変換、生物育成、情報とコンピュータに関する基礎的な知識及び技能を習得するとともに、技術と生活や環境との関わりについて理解を深め、思考力、判断力、表現力を身につけ、生活の向上や改善に積極的に取り組む態度を育成する。		
育 っ たい 力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
	生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解する力。	生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して、技術を評価、選択、応用する力。	進んで技術と関わろうとし、主体的に技術に関する知識・技能を身に付け、よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	ソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに関する知識と技能を活用できる。 ・目的に応じてソフトウェアを選択し、工夫を入れながら作品を仕上げることができる。
2 学期	・コンピュータによる計測と制御	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する技術に関わる倫理観を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。 ・目的や条件に応じて情報処理の手順を工夫している。 ・基礎的・発展的なプログラムを作成できる。 ・コンピュータを用いた計測・制御の基本的な仕組みについての知識を身につけている。
3 学期	課題製作	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで身につけてきた発展的な知識や技能を活用し、作品を製作する。

授業の形態	講義・実習・演習・発表
教科書	『新しい技術・家庭 技術分野』東京書籍
副教材	なし
評価の方法	定期考査 0 % + 平常点 100 % 定期考査：通年で考査は実施しない（平常点のみで評価を行う） 平常点：授業ノートやレポートなどの提出課題、および授業中の製作物 なお、家庭科の評価は技術科の評価と同じ比率で合算することにより、技術・家庭科の評価として示す
備 考	

中学校 3 年 （技術・家庭科）

科 目	週 時 数	担当教諭
技術・家庭科（家庭分野）	0.5	吉田結愛

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 ・家族・家庭や地域における家族・家庭、消費や環境等の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 ・自分と家族の関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい家族・家庭、消費や環境等の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 		
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、消費や環境等に関する基本的な知識技能を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、消費や環境等について見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、消費や環境等について関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と家族・家庭生活 ・幼児の生活と家族 ・家族・家庭や地域との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での活動を考え、家庭には様々なはたらきがあることを理解する。 ・自分や家族の生活は家庭内外での活動に支えられていることに気づく。 ・家庭生活と地域とのかかわりについて理解する。 ・自分の成長をふり返り、幼児期の特徴を理解する。 ・幼児の体の発達の特徴を知る。幼児の心の発達の特徴を知る。 ・幼児の生活の特徴を知り、家族の役割について理解する。 ・子どもの成長と地域とのかかわりについて理解する。 ・幼児の遊びの意義について理解する。幼児の遊びとその発達の特徴に気づく。 ・幼児の遊びを支える遊具やおもちゃを知る。遊びを支える環境について考える。 ・幼児とのふれ合い体験について、自分の課題をもつ。幼児と楽しくかかわるための工夫を考える。 ・幼児とのふれ合い体験の計画を立て、実行する。幼児とのかかわり方を工夫できる。 ・幼児とのかかわりや、感じたこと・考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。 ・家族とのかかわりに関心をもつ。家族関係をよりよくする方法を考える。 ・これからの自分と家族とのかかわりや自分の生活に関心をもつ。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任 	<ul style="list-style-type: none"> ・物資とサービスを利用して生活していることを理解する。消費生活がどのように成り立っているかがわかる。 ・必要なもの（ニーズ）とほしいもの（ウォンツ）のちがいや、商品購入のプロセスを理解する。 ・商品を購入したり利用したりするときの生活情報の収集や活用のしかたを理解する。 ・店舗販売と無店舗販売それぞれの特徴を理解する。即時払い、前払い、後払いの特徴がわかる。 ・契約について理解する。消費生活におけるトラブルについて理解し、その予防方法、対処方法がわかる。 ・消費者を支える法律・制度・機関の必要性が理解できる。クーリング・オフの方法がわかる。 ・基本的な消費者の権利と責任について理解する。
3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・生活における環境負荷を理解し、自らできる対策に主体的に取り組める。 ・環境に配慮した生活スタイルを実現するために、地域や社会の取り組みを理解する。 ・資源を節約し持続可能な社会に必要な生活スタイルを理解する。

授業の形態	講義・実習・演習
教科書	『New 技術・家庭 家庭分野』教育図書
副教材	「New 技術・家庭 家庭分野 ワークノート 家庭 702 準拠」教育図書
評価の方法	定期考査 0 % + 平常点 100 % 定期考査：通年で考査は実施しない（平常点のみで評価を行う） 平常点：感想やレポートなどの提出課題、および授業中の製作物 なお、家庭科の評価は技術科の評価と同じ比率で合算することにより、技術・家庭科の評価として示す
備 考	授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、定期考査は実施しない。そのため、課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。 原則として、授業を欠席した場合や公欠の場合も課題の提出は行ってもらいます。

中学校3年（英語科）（エキスパート・カリキュラム）

科目	週時数	担当教諭
英語	4	林・山田・Kali Pendle

目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音声や単語、表現、文法、言葉の働きを理解するとともに、これらの知識を「聞くこと、話すこと（やり取り・発表）、読むこと、書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 まとまった量の英文に対して、大意を把握したり、必要な情報を正確に理解したり、相手の意向を正しく理解したり、批評的にとらえたりすることができる。また、相手の意向を正しく理解し、言い換えなどをして確認できる。 まとまった量の英文で得た知識等について、理由や事例を添えながら、自分の考えや気持ち、事実などを、論理的な展開を意識しながら、まとまった量の英文で正しく伝えることができる。また、場面に応じて、相手に対してわかりやすく伝えることができる。 英検2級以上の取得を目指して努力する。 						
	育てたい力	<table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題、社会的な話題に関するまとまった量の英文を聞くこと・読むことにおいて、大意を把握したり、必要な情報や相手の意向などを正しく理解したり、批評的に捉えたりすることができる。また、それらを言い換えて再現できる。 場面に応じて、話し手に聞き返すなどして内容を確認することができる。 社会的な話題に関する簡単な形式のディベートやグループディスカッションにおいて、相手の論点を理解できる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 関心のある事柄や日常的话题、社会的な話題について、客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。 英語の音声の特徴を意識しながら、正しい発音で話すことができる。 社会的な話題に関する簡単な形式のディベートやグループディスカッションにおいて、相手の理解度に配慮しながら、論理的に自分の論点を話したり、相手と議論のやりとりをしたりすることができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに関心を持ち、ペアワークなどを通じて、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。 やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けようとしている。 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとしている。 </td> </tr> </tbody> </table>	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題、社会的な話題に関するまとまった量の英文を聞くこと・読むことにおいて、大意を把握したり、必要な情報や相手の意向などを正しく理解したり、批評的に捉えたりすることができる。また、それらを言い換えて再現できる。 場面に応じて、話し手に聞き返すなどして内容を確認することができる。 社会的な話題に関する簡単な形式のディベートやグループディスカッションにおいて、相手の論点を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある事柄や日常的话题、社会的な話題について、客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。 英語の音声の特徴を意識しながら、正しい発音で話すことができる。 社会的な話題に関する簡単な形式のディベートやグループディスカッションにおいて、相手の理解度に配慮しながら、論理的に自分の論点を話したり、相手と議論のやりとりをしたりすることができる。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
<ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題、社会的な話題に関するまとまった量の英文を聞くこと・読むことにおいて、大意を把握したり、必要な情報や相手の意向などを正しく理解したり、批評的に捉えたりすることができる。また、それらを言い換えて再現できる。 場面に応じて、話し手に聞き返すなどして内容を確認することができる。 社会的な話題に関する簡単な形式のディベートやグループディスカッションにおいて、相手の論点を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある事柄や日常的话题、社会的な話題について、客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。 英語の音声の特徴を意識しながら、正しい発音で話すことができる。 社会的な話題に関する簡単な形式のディベートやグループディスカッションにおいて、相手の理解度に配慮しながら、論理的に自分の論点を話したり、相手と議論のやりとりをしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに関心を持ち、ペアワークなどを通じて、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。 やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けようとしている。 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとしている。 					

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了の継続用法の形式と意味を理解し、それらの知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
	Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了進行形の形式と意味を理解し、それらの知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
	Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> 受動態の形式と意味を理解し、それらの知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
2学期	Lesson 4	<ul style="list-style-type: none"> 後置修飾の形式と意味を理解し、その知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
	Lesson 5	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞の形式と意味を理解し、その知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
	Lesson 6	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な関係代名詞の形式と意味を理解し、それらの知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
3学期	Lesson 7	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法の形式と意味を理解し、それらの知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、やりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
	Lesson 8	<ul style="list-style-type: none"> 間接疑問文と動詞+人+不定詞の形式と意味を理解し、それらの知識を使い、社会的な話題について客観的な事実や自分の考え・意見を、理由や事例を添え、まとまった量の英文で論理的に話したり書いたりすることができる。また、簡単なディベートやディスカッションでやりとりをしながら、互いに意見や考えを深め、コミュニケーションを続けることができる。
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが興味のあることについて、また社会話題などについて、簡単なディベート・ディスカッション・スピーチなどの様々な形式を通して、相手の理解度を確認しながらやりとりすることができる。

授業の形態	日本人の先生による授業（週3時間） 外国人の先生と日本人の先生によるチームティーチング（週1時間）
教科書	『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』三省堂
副教材	『NEW CROWN 完全準拠 Workbook 3』三省堂 『新コメタン⑩』アルク 『SUPERSTEP 中学英文法』くもん出版社
評価の方法	定期考査 30%＋平常点 70%（平常点は、主に授業への積極的な参加態度、課題提出状況、パフォーマンステストなどを評価対象とする。）
備考	<ul style="list-style-type: none"> 他の講座と授業進度は同じであるが、拡張的なコミュニケーション活動などを取り入れていく。 定期考査とは別に、スキルフォーカステストを別途実施する。 上記の他オリジナル教材を使用する。

中学校3年（英語科）

科 目	週 時 数	担当教諭
英 語	4	林・鳥居・水谷葉奈・山田・Kali Pendle

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の知識を「聞くこと、話すこと（やりとり・発表）、読むこと、書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 外国語を通じ、主体的・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 外国語を通じ、言語や文化に対する理解を深め、自らの考えや意見などを表現したり伝え合ったりすることができる力を身につける。 英検準2級以上の取得を目指す。 		
	育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現
<ul style="list-style-type: none"> 日常的话题や社会的な話題に関するまとまった量の英文を聞くこと・読むことにおいて、概要や要点を適切に理解することができる。 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、必要な情報を正確に読み取ることができる。 話の内容や書き手の意見などに対して自らの感想を述べたり、賛否やその理由を示したりすることができるように、書かれた内容や考え方などをとらえることができる。 英語の学習を通して、言語の背景にある文化などを理解できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会的事柄などについて自分の考えや気持ちなどを即興で相手に正しく伝えるように、話のつながりなどに注意してやりとりができる。 与えられたテーマについて論理的なスピーチをすることができる。 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりすることができる。またそれを述べ合うことができる。 自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。 発音や強勢、イントネーションなどを意識し、英語を話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに関心を持ち、ペアワークやグループ活動などを通じて、主体的に英語でのコミュニケーションを図ろうとしている。 相手の質問や意見などに対応し、対話を継続・発展させようとしている。 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Lesson 1	・現在完了の継続用法を理解し、それらが用いられた英文を正しく理解したり、それらの知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互いに述べ合ったり、質問したりすることができる。
	Lesson 2	・現在完了進行形を理解し、それらの知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互いに述べ合ったり、質問したりすることができる。
	Lesson 3	・受動態を理解し、それらの知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を述べ合ったり、質問したりすることができる。
2 学期	Lesson 4	・後置修飾を理解し、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を述べ合ったり、質問したりすることができる。
	Lesson 5	・関係代名詞を理解し、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの意見を述べ合ったり、質問したりすることができる。また、その知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることで互いの考えを深め合うことができる。
	Lesson 6	・発展的な関係代名詞を理解し、それらが用いられた英文を正しく理解したり、それらの知識を使い物事や状況を説明したり、意見を述べ合ったりするなど、場面に応じ適切に使うことができる。また、それらの知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることで互いの考えを深め合うことができる。
3 学期	Lesson 7	・仮定法を理解し、それらが用いられた英文を正しく理解したり、それらの知識を使い物事や状況を説明したり、意見を述べ合ったりするなど、場面に応じ適切に使うことができる。また、それらの知識を使いながら、与えられたテーマ等に対して、賛否やその理由について伝えたり、関連する質問をしたりすることで互いの考えを深め合うことができる。
	Lesson 8	<ul style="list-style-type: none"> 間接疑問文と動詞+人+不定詞を理解し、その知識を使い物事や状況を説明したり、自らの考えや意見を互いに述べ合ったり、質問したりすることができる。 まとまりのある文章を読み、概要を伝えることができる。 まとまりのある文章を読み、考えた事柄を相手と伝え合うことができる。
	まとめ	・学習した表現を使って、それぞれが興味関心のあることについて話をしたり聞いたりすることができる。また社会問題などについてのスピーチをすることができる。

授業の形態	日本人の先生による授業（週3時間） 外国人の先生と日本人の先生によるティームティーチング（週1時間）
教科書	『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』三省堂
副教材	『NEW CROWN 完全準拠 Workbook 3』三省堂 『新ユメタン①』アルク 『SUPERSTEP 中学英文法』くもん出版社
評価の方法	定期考査 30%＋平常点 70%（平常点は、主に授業への積極的な参加態度、課題提出状況、パフォーマンステストなどを評価対象とする。）
備考	上記の他オリジナル教材を使用する。

中学校3年 (道徳科)

科目	週時数	担当教諭
道徳	1	中学3年担任

目標	確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を涵養する。		
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	よりよく生きるための基盤となる考えを培うために、教科や探究活動などの学習プロセスで出会う多様な価値観について理解を深める力。	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深め、人間としてどのように対処することが望ましいかを判断、表現する力。	「自由と清新」の理念に基づき、個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として「平和と民主主義」を尊ぶ人間性。

時期	学習教材	内容項目
1 学期	1 自分の思い・相手の思い 2 藤井聡太の学び方 3 僕は人を裏切ったのか 4 いのちの花プロジェクト 5 卒業文集最後の二行 6 あなたは顔で差別をしますか 7 昨日より今日、今日よりも明日	学習教材に含まれる学習内容（順不同） ・真理の探究、創造 ・社会参画、公共の精神 ・自然愛護 ・向上心、個性の伸長 ・節度、節制 ・よりよい学校生活、集団生活の充実
2 学期	8 鼻き蠅 9 父のひと言 10 無限の道 11 テーブルの卵焼き 12 歩きスマホをどうするか 13 二通の手紙 14 償い 15 美佐の進路	・友情、信頼 ・自主、自律、自由と責任 ・遵法精神、公德心 ・相互理解、寛容 ・公正、公平、社会主義 ・思いやり、感謝 ・国際理解、国際貢献 ・勤労
3 学期	16 平和をつなぐ 17 変わりゆく地球 18 校長先生の模擬面接 19 カーテンの向こう 20 専門家であること 21 若者議会 22 ひび割れ壺 23 あふれる愛 24 抗議する選手達 25 サルも人も愛した写真家 26 家族の思いと意思表示カード 27 片足のアルペンスキーヤー 28 足袋の季節 29 旅立ちの日に 30 もう一つの時間 カムイモシリとアイヌモシ	・よりよく生きる喜び ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・希望と勇気、克己と強い意志 ・家族愛、家庭生活の充実

授業の形態	クラス授業／一斉授業
教科書	『中学道徳3 とびだそう未来へ』教育出版
評価の方法	数値による評価は行わず、学習活動における生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で記述する。
備考	教科学習、探究活動との関連を重視し、チーム担任によるスライド制の授業を実施する。